

K-632

山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第22集

# 市内遺跡発掘調査報告書(11)

堀端遺跡の調査

宮遺跡の調査

中里遺跡の調査

長者屋敷遺跡の調査

他

2003年

長井市教育委員会





# 市内遺跡発掘調査報告書(11)

堀端 遺跡の調査

宮 遺跡の調査

中里 遺跡の調査

長者屋敷 遺跡の調査

他

平成 15 年 3 月

長井市教育委員会



## 序

今年度実施した市内遺跡発掘調査事業における調査件数は7件にとどまりましたが、起因事業の内訳をみると宅地造成など民間開発が多数を占めています。なかでも個人宅地開発に伴って4件の調査が行われ、貴重な成果を得ることができました。宮遺跡は市街地に立地した遺跡にもかかわらず数多くの土器や石器が出土し、縄文時代中期の大規模集落の一端を垣間見ることができます。

また、昨年は長井市で「縄文人と巨大木柱」のシンポジウムが開催され、県内外から多数の参加をいただきました。長者敷遺跡の4本柱をはじめ国内の巨大木柱列やストーンサークル、遠くはイギリスのストーンヘンジの遺跡が紹介され、古代人の方位観やランドスケープについて討論いただき、これまでとは違った歴史観が導き出されるに至っています。これらの遺跡の発見も小規模な試掘調査から始まったもので、開発と遺跡保護の重要性が改めて認識されたシンポジウムと言えるでしょう。

公共事業が減少した現在でも、民間開発は毎年計画され、開発と遺跡保護の調整はまだまだ続きそうです。これからも開発事業者の方々にご理解をいただきながら本事業の継続に努めてまいる所存でございます。

最後になりましたが、本調査にご理解ご協力をいただいた方々、また、厳しい天候にもかかわらず調査に参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

平成15年3月

長井市教育委員会

教育長 竹田辰雄



## 例　　言

1 本報告書は、長井市教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成14年度以降の開発事業における調整ならびに道路台帳整備に関する市内遺跡発掘調査報告書である。

2 事業期間は、平成14年4月1日から平成15年3月31日までである。

3 調査体制は次のとおりである。

調査員 岩崎義信（長井市教育委員会 文化生涯学習課 補佐）

調査参加者 安部怒雄、梅津成一、鳥貴忠夫、高橋勝太郎、高橋 良、平塚文雄

事務局

事務局長 中川輝男（長井市教育委員会 文化生涯学習課 芸術文化主幹）

事務局長補佐 村上和雄（長井市教育委員会 文化生涯学習課 補佐）

事務局長補佐 岩崎義信（長井市教育委員会 文化生涯学習課 補佐）

事務局員 吉川幸代（長井市教育委員会 文化生涯学習課 主事）

事務局員 土屋美幸（長井市教育委員会 文化生涯学習課）

事務局員 布川紀子（長井市教育委員会 文化生涯学習課）

4 本調査にあたっては、次の方々のご指導ご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

山形県教育庁社会教育課文化財保護室、山形おきたま農業協同組合、那須建設株式会社、長井市古代の丘資料館、孫田喜一郎、木村武夫、高橋知言、遠藤新一、堀 邦夫、長沼房子、橋本正一の各氏

また、報告書を作成するにあたり次の方々からご指導・ご助言を賜った。

山形県埋蔵文化財センター、阿部明彦、小林圭一、音原哲文の各氏

なお、石器の石材鑑定は本多康夫氏に依頼した。

5 遺構・遺物の縮尺はそれぞれスケールで示した。

6 本書の編集・執筆は岩崎義信が担当し、挿図・図版の作成は土屋美幸、布川紀子の協力を得た。

## 目 次

I 調査に至るまで	1	第25図 中里遺跡土坑断面図 ..... 31
1. 調査の目的	1	第26図 中里遺跡土坑出土土器(1) ..... 38
2. 調査の方法	1	第27図 中里遺跡土坑出土土器(2) ..... 39
3. 調査の経過	1	第28図 中里遺跡土坑出土土器(3) ..... 40
II 開発事業に係る調査	4	第29図 中里遺跡土坑出土土器(4) ..... 41
(1) 立会調査の概要	4	第30図 中里遺跡土坑出土土器(5) ..... 42
1. 小桜館	4	第31図 中里遺跡土坑出土土器(6) ..... 43
2. 速藤館	5	第32図 中里遺跡土坑出土土器(7) ..... 44
3. 小桜館	6	第33図 中里遺跡土坑出土土器(8) ..... 45
4. 堀端遺跡	7	第34図 中里遺跡包含層出土土器 ..... 45
5. 宮遺跡	10	第35図 中里遺跡包含層出土土器・土製品 ..... 46
III 遺跡台帳整備に係る調査	26	第36図 中里遺跡出土石器(1) ..... 47
6. 中里遺跡	26	第37図 中里遺跡出土石器(2) ..... 48
7. 長者屋敷遺跡	61	
報告書抄録	卷末	

## 表 目 次

第1表 調査工程表	2	
第2表 土坑一覧表	28・29	

## 挿図目次

第1図 調査箇所位置図	3	
第2図 小桜館概要図	4	
第3図 速藤館概要図	5	
第4図 小桜館概要図	6	
第5図 堀端遺跡概要図	7	
第6図 堀端遺跡遺構配置図	8	
第7図 1・2号住居跡	8	
第8図 1号土坑	9	
第9図 出土遺物	9	
第10図 宮遺跡概要図	10	
第11図 基本土層図	11	
第12図 宮遺跡遺構配置図	11	
第13図 1号住居跡、出土土器	12	
第14図 1~5号土坑	12	
第15図 土坑出土遺物	13	
第16図 その他の遺構	14	
第17図 その他の遺構出土土器	14	
第18図 包含層出土土器(1)	16	
第19図 包含層出土土器(2)	17	
第20図 包含層出土土器(3)	18	
第21図 包含層出土遺物	19	
第22図 中里遺跡概要図	26	
第23図 中里遺跡遺構配置図	27	
第24図 中里遺跡土坑平面図	30	

## 図版目次

図版1 小桜館	4	
図版2 速藤館	5	
図版3 小桜館	6	
図版4 堀端遺跡	9	
図版5 宮遺跡	20	
図版6 宮遺跡出土土器(1)	21	
図版7 宮遺跡出土土器(2)	22	
図版8 宮遺跡出土土器(3)	23	
図版9 宮遺跡出土土器(4)	24	
図版10 宮遺跡出土石器	25	
図版11 中里遺跡	49	
図版12 中里遺跡土坑出土土器(1)	50	
図版13 中里遺跡土坑出土土器(2)	51	
図版14 中里遺跡土坑出土土器(3)	52	
図版15 中里遺跡土坑出土土器(4)	53	
図版16 中里遺跡土坑出土土器(5)	54	
図版17 中里遺跡土坑出土土器(6)	55	
図版18 中里遺跡出土土坑土器(7)	56	
図版19 中里遺跡土坑出土土器(8)、包含層出土土器(1)	56	
図版20 中里遺跡包含層出土土器(2)	57	
図版21 中里遺跡出土石器(1)	58	
図版22 中里遺跡出土石器(2)	59	
図版23 長者屋敷遺跡	61	

# I 調査に至るまで

## 1. 調査の目的

本市では昭和57年から行った遺跡詳細分布調査を発端にし、市内全域にわたる分布調査を実施してきたところ現在まで216箇所の遺跡を把握しているが、近年時代の要求に伴い、遺跡が存在する地域にも開発がおよぶようになってきた。本調査は開発事業との調整を図り、事前に遺跡の保護にあたることを目的としたものである。対象となる開発事業の内容は本市が行う公共事業と、宅地造成をはじめとする民間開発事業が主体となる。

また、周知の遺跡はそのほとんどが表面踏査で確認したものである。そのため遺跡の範囲・性格・年代等を明らかにする目的から一部試掘調査を実施し、記録として保存にあたり遺跡台帳の整備に努めた。

## 2. 調査の方法

調査は内容・目的から次の方法で実施している。

### (1) 現地踏査

遺跡の周辺が開発範囲に含まれる場合や、現在遺跡として登録されていない地域でも、開発事業予定区域が広範囲におよぶ場合には現地踏査、聞き取り調査を行い遺跡の有無の確認にあたり、開発事業と遺跡保護の調整にあたる。

### (2) 試掘調査

周知の遺跡が開発事業予定区域に含まれる場合や、遺跡周辺に開発がおよぶ恐れがあるときには坪掘りやトレンチ掘りを行い、遺構・遺物の広がりを確認し、さらに遺構検出面までの深さを把握し開発事業と遺跡保護の調整を図る。

また、遺跡台帳整備の目的から、これまで表面踏査による推定遺跡範囲に坪掘りやトレンチ掘り、小規模な発掘調査を行い遺構・遺物の検出にあたり遺跡の範囲・性格・年代等を明らかにし、遺跡台帳の補筆にあたる。

### (3) 立会調査

開発事業において遺跡におよぼす影響が軽微な場合は、工事施工に立ち会って調査を行う。発見された遺構・遺物は記録保存を行う。

## 3. 調査の経過

長井市教育委員会では、これまで行ってきた分布調査をもとに遺跡地図を作成しており、この地図を開発を担当する関係機関に配布し、今後計画される各種開発事業にさきがけて埋蔵文化財に関するヒアリングを行い、必要に応じ上記の調査を実施した。また、民間開発についても随時受付を行っており、開発に係る事前調査依頼の受け入れ態勢を組織し、同様の調査を行った。

その結果、本年度は7遺跡の調査を実施した。内訳は民間開発に係る調査が5件、遺跡台帳整備に関する調査が2件で、公共事業に係わる調査の依頼は該当するものがなかった。民間開発が増えつつあるのが現状である。

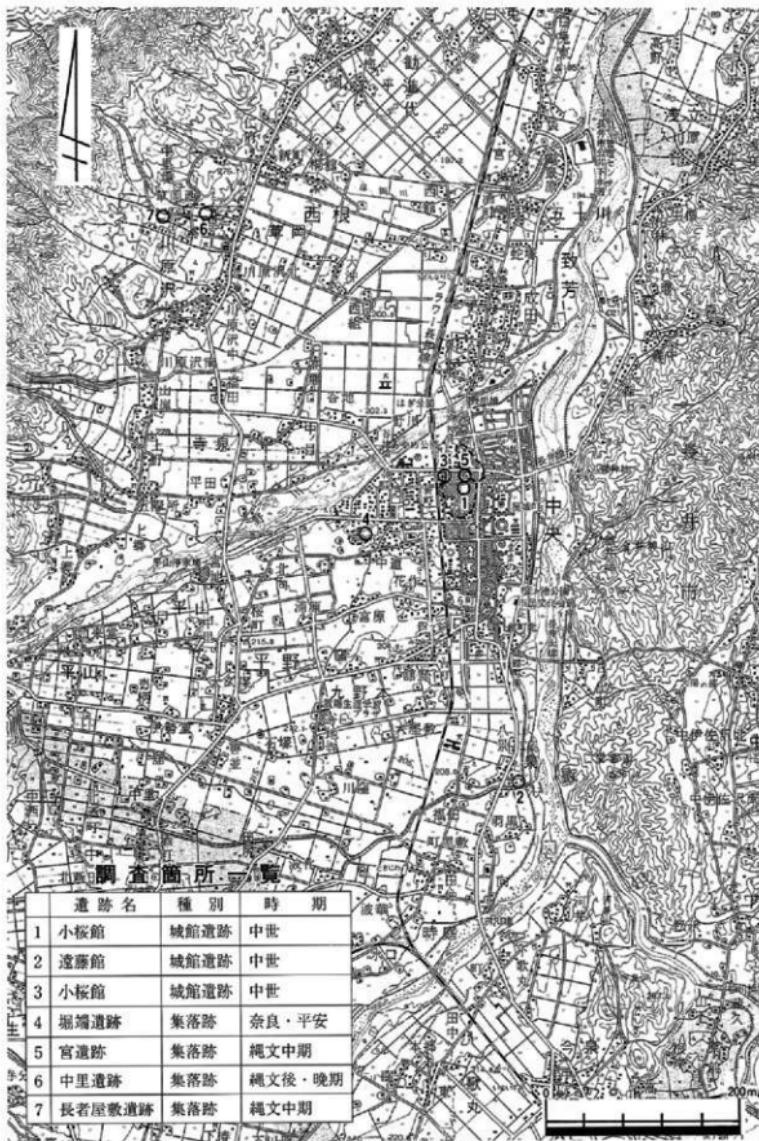
なお、現地調査の工程と、ヒアリングに係る調査の内容は次のとおりである。

### 調査工程表

日程 内容	平成14年										平成15年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
試掘調査						■							
立会調査	■	■	■					■					
確認調査			■										
発掘調査		■											
報告書作成							■	■	■	■	■	■	■

### 埋蔵文化財ヒアリング覧

事業種別	遺跡名	調査区分	種別	時期	備考
宅地開発に係る調査	小桜館	立会調査	城館遺跡	中世	民間開発
	遠藤館	立会調査	城館遺跡	中世	民間開発
	小桜館	立会調査	城館遺跡	中世	民間開発
	堀端遺跡	立会調査	集落跡	奈良・平安	民間開発
	宮遺跡	立会調査	集落跡	縄文中期	民間開発
遺跡台帳整備に係る調査	中里遺跡	発掘調査	集落跡	縄文後・晚期	
	長者屋敷遺跡	確認調査	集落跡	縄文中期	



第1図 調査箇所位置図

## II 開発事業に係る調査

### (1) 立会調査の概要

#### 1. 小桜館

所在地 長井市十日町地内

調査期間 平成14年4月23日

起因事業 個人宅地造成

遺跡環境 長井市街地の中央部、旧西置賜郡役所の北東に位置し昭和63年の中世城館址調査で確認された遺跡である。伊達の家臣片倉小十郎の居館と伝えられ宅地に囲まれた狭地に土塁や堀跡の凹地が残っている箇所も見られる。

調査状況 開発予定区域に $1 \times 5\text{m}$ トレンチを任意に2箇所設定し、地山層まで重機を用いて掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

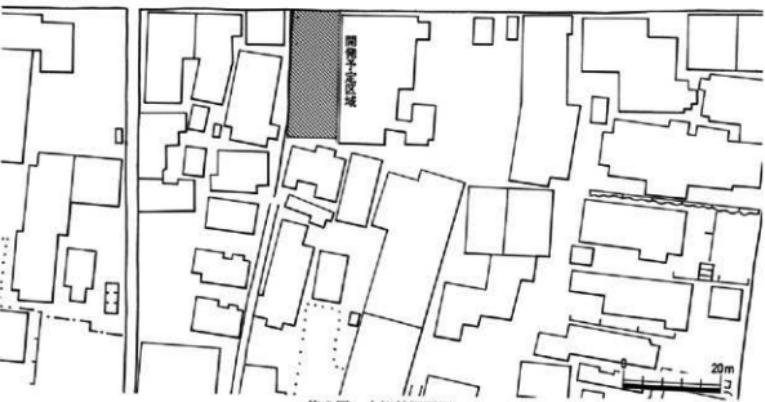
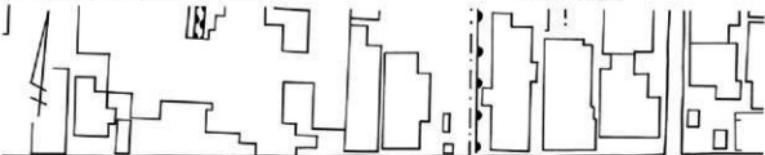
調査結果 1トレンチで土坑と陶器を検出したが、本造成は杭打ち式の基礎工法であり遺跡におよぼす影響はきわめて少ないものと考えられる。



上：調査区近景 下：2トレンチ



図版1 小桜館



第2図 小桜館概要図

## 2. 遠藤館

所在地 長井市泉地内

調査期間 平成14年5月9日

起因事業 個人宅地造成

遺跡環境 長井市街地の南部、泉地区に位置し昭和

63年の中世城館址調査で確認された遺跡である。

最上川と福田川の合流地点にあり遠藤何某の居館と  
伝えられている。

調査状況 開発予定区域に2×5mのトレンチを任意に2箇所設定し、地山層まで重機を用いて掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果 1トレンチで中世陶器、2トレンチで円形プランを検出したが、排水施設の設置による搅乱が多く見られた。また、宅地造成を実施するにあたり隣接する道路まで1mの盛土を行う予定であることから、本造成が遺跡におよぼす影響はきわめて少ないものと考えられる。



図版2 遠藤館



第3図 遠藤館概要図

### 3. 小桜館

所在地 長井市横町地内

調査期間 平成 14 年 5 月 27 日

起因事業 個人宅地造成

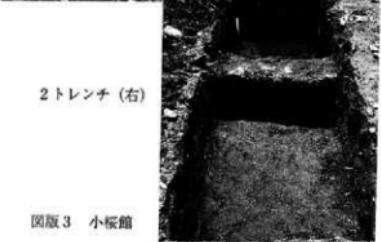
遺跡環境 長井市街地の中央部、總宮神社の南に位置し遍照寺・總宮神社の門前町として栄えた地域である。伊達の家臣片倉十郎の居館と伝えられ宅地に囲まれた狭地に土塁や堀跡の凹地が残っている箇所も見られる。また、東側には縄文中期の宮遺跡や平安時代の横町遺跡とも隣接する。

調査状況 開発予定区域に  $1 \times 3$  m トレンチを任意に設定し、地山層まで手掘りで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果 2 トレンチで黒褐色土の円形プランと陶器を検出したが、いずれも近代の所産であった。また、各トレンチで現在の擾乱が随所におよんでおり、本造成が遺跡におよぼす影響はきわめて少ないものと考えられる。



1 トレンチ（左）



2 トレンチ（右）

図版 3 小桜館



第 4 図 小桜館概要図

#### 4. 堀端遺跡

所在 地 長井市中道地内

調査期間 平成 14 年 6 月 12 日～24 日

起因事業 宅地造成

遺跡環境 長井市街地の北西部、置賜野川の河岸段丘上に位置し水田地帯と振興住宅地が隣接する地域に広がる遺跡である。当地域の起源は江戸期の寛政年間に越後地方から移り住んだのが始まりと伝えられている。平成 12 年に、開発計画の提示を受けて新たに発見された遺跡で、開発と遺跡保護の調整に基づき平成 14 年に立会調査を実施したものである。

調査状況 調査の対象になったのは開発予定区域の北西区域で、調査面積は約 1100 m<sup>2</sup>である。重機による表土除去を行った後、手掘りで遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果 堪穴住居跡 2 棟、土坑 1 基を検出した。出土遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器の小破片でほとんどが摩滅を受けている。包含層までの深さが 20 cm と浅いことから、調査区域一帯は基盤整備や耕作で擾乱を受けた可能性が強い。しかし、西側に隣接する水田地帯で他の開発事業に係る試掘調査に立ち会ったところ、包含層までの深さは本遺跡と同様 20 cm と浅いにもかかわらず多くの遺物・遺構が検出された。分布調査の結果もふまえて判断すると、開発区域のほぼ中央部を西から東に向て流れる旧河川の存在が想定され、本調査区域は遺跡の東端部と考えられる。また、本遺跡の西にも新たな遺跡が確認されていることから旧河川沿いの自然堤防にかけて複数の集落跡が点在するものと推測される。



第 5 図 堀端遺跡概要図

### (1) 穴住居跡

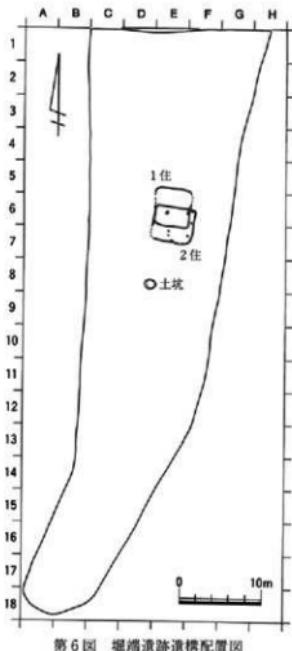
#### 1号住居跡（第7図、図版4）

D・E-5・6グリットに位置し、2号住居跡と重複するが本住居跡が新しい。遺存状況は基盤整備で削平を受けたため覆土の堆積が薄く、東壁のコーナー付近と西壁の一部が残っていない状況にある。また、稻杭の痕跡が隨所に見られる。平面形は方形を呈し、東西4.3m、南北4.62mの規模を測る。主軸方向は長軸方向にある東壁を基準にするとN-9°-Eを指針する。壁は開きぎみに立ち上がるが詳細は不明で、床面は平坦な灰褐色粘質土を床面とするが、稻杭の痕跡で小穴が隨所に見られる。柱穴は径18~34cmの柱穴が5基検出されたが、2号住居跡と重複関係にあるため帰属は不明である。周溝とカマドは検出されなかった。また、出土遺物も検出されていない。

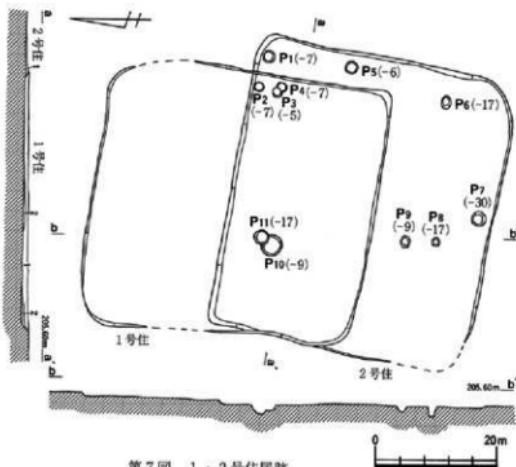
覆土1は灰褐色土で粘性があり炭化物を若干含む。2は暗褐色土でつまりのある土質。

#### 2号住居跡（第7図、図版4）

D・E-6・7グリットに位置し、1号住居跡と重複するが本住居跡が新しい。遺存状況は基盤整備で削平を受けたため覆土の堆積が薄く、西南壁のコーナー付近が残っていない状況にある。また、稻杭の痕跡が隨所に見られる。平面形は方形を呈し東西4.9m、南北4.2mの規模を測る。主軸方向は長軸方向にある北壁を基準にするとN-80°-Wを指針する。壁は開きぎみに立ち上がるが詳細は不明である。床面は平坦な灰褐色粘質土を床面とするが、稻杭の痕跡で小穴が隨所に見られる。柱穴は径12~22cmの柱穴が6基検出されたが、1号住居跡と重複関係にあるため帰属は明である。周溝とカマドは検出されなかった。覆土1は暗褐色土で暗茶褐色土と褐色土をブロック状に含む。出土遺物は須恵器の底部が1点出土した。1は底部に回転糸切りの痕跡を残す。



第6図 堀端遺跡造構配置図



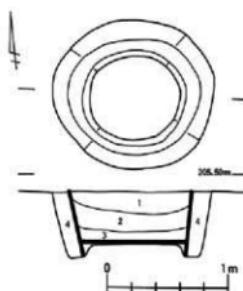
第7図 1・2号住居跡

(2) 土坑 (第8図、図版4)

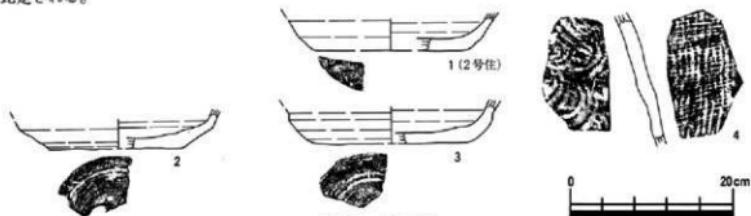
D-8に位置する。円形を呈し壁の上部は基盤整備で削平を受けているが、確認面での径は133～123cmを測る。壁は開きぎみに立上がり灰褐色地山層を掘り込んで構築されている。本土坑には木製の桶が埋設されており貯蔵用の施設と考えられる。陶器片が出土しており、近代の所産であろう。

(3) 包含層出土遺物 (第9図、図版4)

2・3は須恵器環で底部付近の器壁に縫が形成され、底部には範状工具による調整痕が見られ、4は両面に叩痕をもつ甕で8～9世纪に比定される。



第8図 1号土坑



第9図 出土遺物



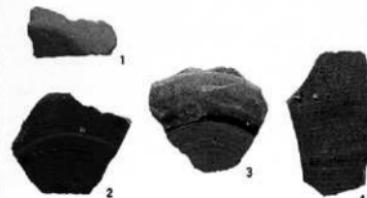
調査区全景（南から）



1・2号住居跡（東から）



1号土坑（南から）



出土遺物

図版4 墓端遺跡

## 5. 宮遺跡

所在地 長井市十日町地内

調査期間 平成 14 年 9 月 13 日、10 月 11 日～31 日

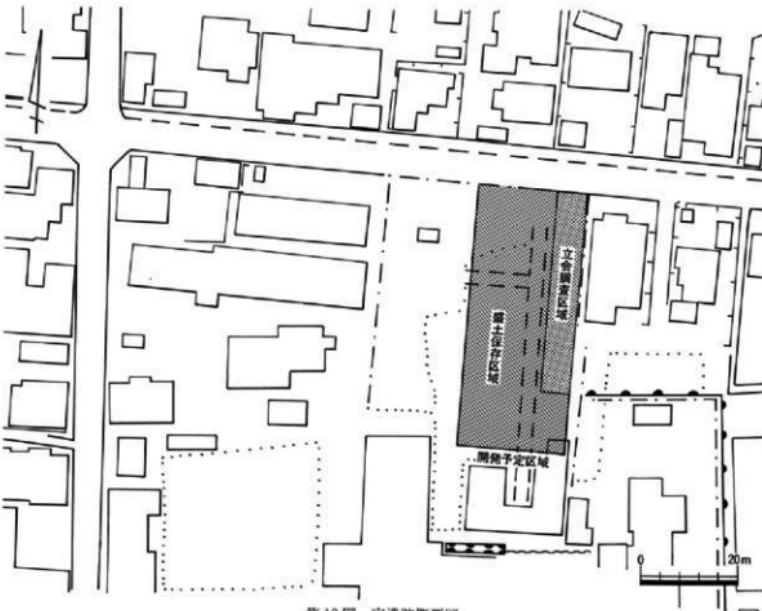
起因事業 個人宅地造成

遺跡環境 長井市街地の中央部、旧西置賜郡役所の北東部に位置する。遺跡一帯は置賜野川の河岸段丘にあたり、昭和 30 年代の道路改良工事および昭和 63 年の都市計画整備に伴い過去 2 回の緊急発掘調査が行われ、縄文時代中期前半から中葉の集落跡が検出され数多くの遺物が出土している。

調査状況 調査の対象になったのは開発予定区域の東側で、調査面積は約 350 m<sup>2</sup>である。重機による表土除去を行った後、手掘りで遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果 住居跡 1 棟、土坑 3 基、性格不明の遺構 1 基他を検出した。また、遺物は整理箱で 15 箱が出土し縄文土器が大半をしめている。本遺跡は包含層に達するまで深く、最も深いところは調査区中央部で現地表面から 1.2 m を測る。昭和 63 年の発掘調査から判断すると、本調査区北側の東西に走る県道舟場谷地橋線沿いでは遺物包含層までの深さが 50 ～ 60 cm を測り、本調査区南側の 8 ～ 11 列も同様の深さである。

これらのことから、本遺跡は置賜野川の自然堤防に沿って営まれた集落跡と考えられ、現在の県道に沿って東西 100 m 以上の規模を有する遺跡と推測することができる。このたびの調査では住居跡の検出は少なかったが、密集した土器の出土状況や土偶の出土、それに過去 2 回の発掘調査から縄文中期の大規模遺跡の存在が予想される。



第 10 図 宮遺跡概要図

### (1) 基本土層

南北に長い調査区の東壁では地山に達する深さが調査区中央部で最も深いことから、東西にかけて浅い谷か河川の存在が予想される。以下、東壁を基に土層の説明を行うものとする。

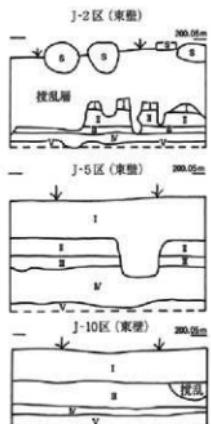
#### 第Ⅰ層 表土層

第Ⅱ層 暗茶褐色土 粘性を帯びしまり弱い土質。

第Ⅲ層 灰褐色土 褐色粒子を含み、しまりある土質。

第Ⅳ層 暗灰褐色土 橙色粒子を含みかたい土質で、本層が遺物包含層である。

第Ⅴ層 灰茶褐色土 粘性に富み砂粒を多く含む土質。

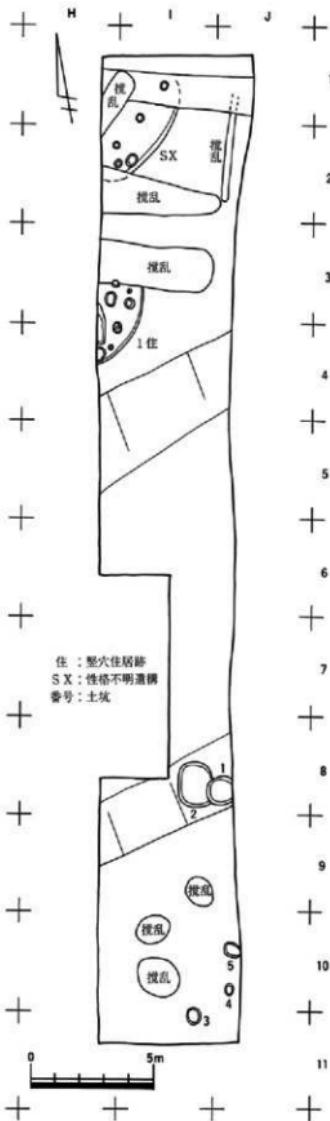


第11図 基本土層図 (S = 1/25)

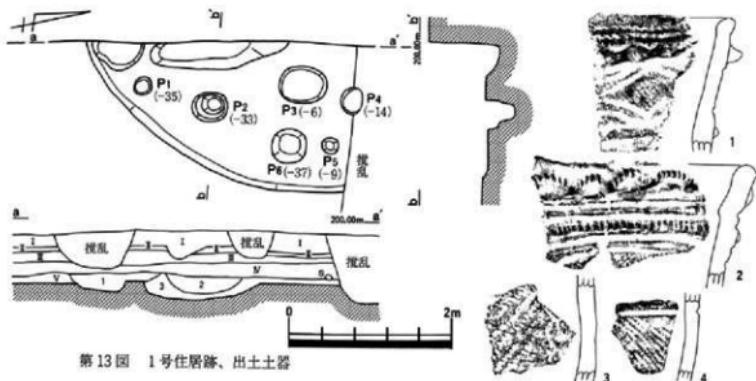
### (2) 住居跡

#### 1号住居跡 (第13図、図版5)

H・I-3・4区に位置し、一部擾乱を受けている。検出状況から北北東-南南西に長軸をもち梢円形を呈する堅穴住居と推測される。ピットは6基検出されたが床面から30cm以上の深さを有し壁に沿って並んでいる1・2・6号ピットが本住居跡に伴う柱穴と考えられる。炉跡や周溝は検出されなかった。遺構は第V層を掘り込んで構築されており、覆土は次のとおりである。



第12図 宮遺跡遺構配置図



第13図 1号居住跡、出土土器

1は暗茶褐色砂質で炭化粒子を多く含む。2は暗茶褐色土、3は茶褐色土で褐色土をブロック状に含む。出土遺物は覆土から土器片が數片出土したほか、5号ピットから土器片2が出土している。1は口縁を巡る2条の隆帯で区画され然系の側面圧痕で直線・曲線・菱形文が施され、大木7 b式に比定される。2は深鉢の波状口縁で刻目をもつ隆帯と沈線が口縁部を巡る土器で大木7 bから8 a式期に比定される。3は結節縄文が縦位に施文される深鉢の体部で大木7 bから8 a式期に比定される土器で、4は沈線による区画文をもち大木8 a式に比定される。出土遺物から本住居跡は大木7 bから8 a式期に比定される。

### (3) 土 坑

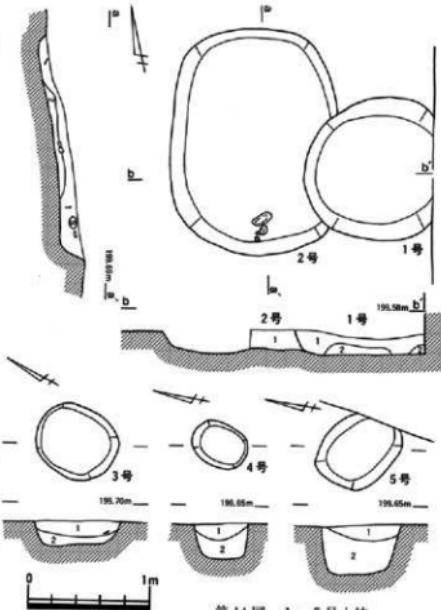
5基の土坑を検出した。いずれもIV層下位で検出しV層を掘り込んで構築されている。

#### 1号土坑 (第14・15図1~12、図版5・6)

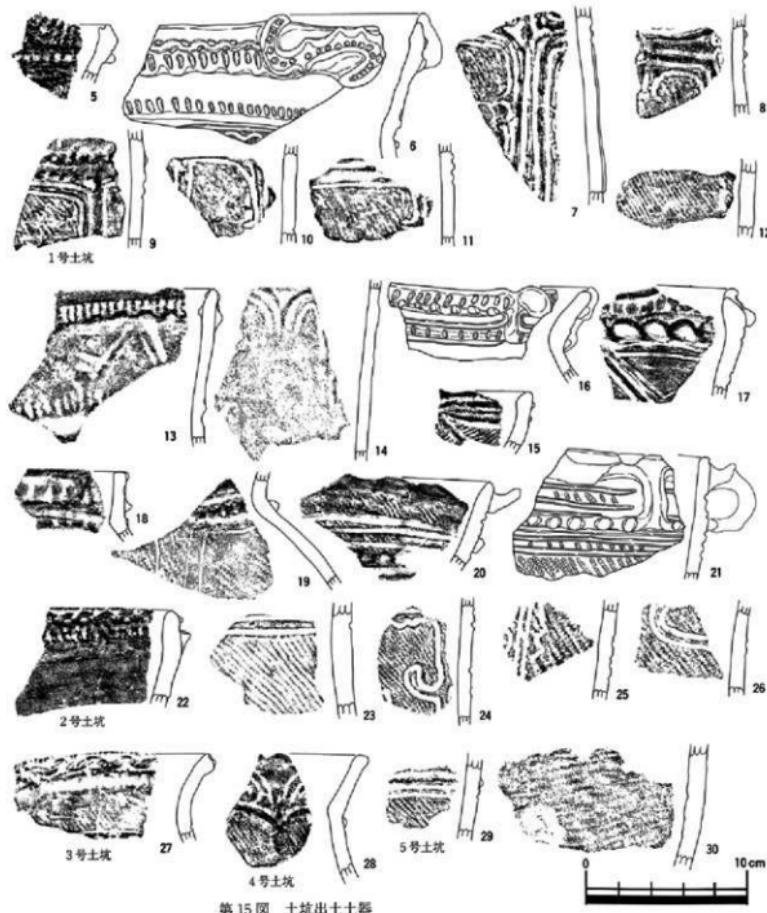
I・J-8区に位置し、平面形はほぼ円形を呈する。2号土坑と重複するが本土坑が新しい。105×120cmの径をもち、確認面からの深さは18cmを測る。覆土は1暗茶褐色土、2は灰茶褐色土である。出土遺物で5・6は口縁に陰帯や刺突を伴う深鉢で2には隆帯による横位S字状文をもつ。7~12は隆帯・沈線による区画文が施され大木8 a式土器である。

#### 2号土坑 (第14・15図13~26、図版5・6)

I・J-8区に位置し、平面形は梢円形を呈する。1号土坑と重複するが本土坑が古い。長軸187×短軸135cmの規模をもち、確認面からの深さは16cmを測る。覆土は1暗灰茶



第14図 1~5号土坑

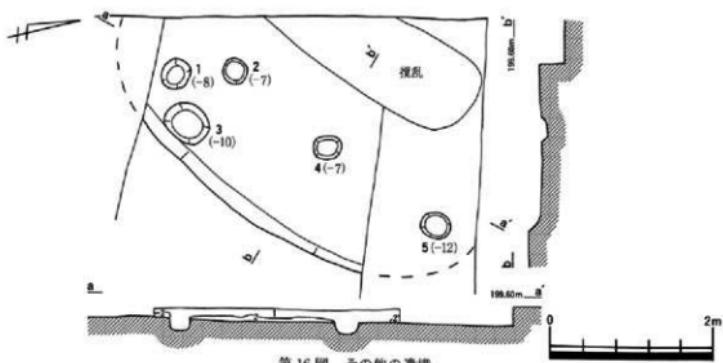


第15図 土坑出土土器

褐色土、2は灰茶褐色土である。出土遺物は土器で13~14は隆線と縄の側面圧痕で区画文が施され大木7 b式土器に比定される。15~20は口縁に隆帯と刺突文が巡り17~20は口縁が波状を呈し大木7 bから8 a式期に比定される。21は口縁に隆帯による横状取手が付き刺突文が巡り、22~26は体部に沈線で区画した直線や曲線文が施され、大木8 a式土器に比定される。

### 3号土坑（第14・15図27、図版6）

J-11区に位置し、平面形は楕円形を呈する。長軸67×短軸58cmの規模をもち、確認面からの深さは20cmを測る。覆土は1暗灰茶褐色土、2は灰褐色土である。出土遺物は土器片が1点出土し、27は外反りする口縁に隆帯による波状文が巡る。大木7 b~8 a式期に比定される土器である。



第16図 その他の遺構

#### 4号土坑 (第14・15図 28、図版6)

J-10区に位置し、平面形は梢円形を呈する。長軸47×短軸35cmの規模をもち、確認面からの深さは30cmを測る。覆土は1灰茶褐色土、2暗茶褐色土。出土遺物は28で大木7b式に比定される。

#### 5号土坑 (第14・15図 29・30)

J-10区に位置し、平面形は梢円形を呈する。長軸64(現存値)×短軸56cmの規模をもち、確認面からの深さは40cmを測る。覆土は1暗茶褐色土、2は灰茶褐色土で29~30は大木8a式土器に比定される。

#### 性格不明遺構 (第14・17図 31~51、図版6)

H・I-1・2区に位置し、形態は梢円形と推測され、確認面からの深さは12cmを測る。覆土は1暗灰茶褐色土、2は灰茶褐色土である。出土遺物は土器片で31~35は口縁に隆線と撚糸の側面圧痕で区画文が施される土器で大木7b式に比定される。36・37は半截竹管で刺突文や押引文が施文され、38~41は隆帯や撚糸の刺突や側面圧痕が施され、43~46は波状隆線や結節繩文による垂線が施文される。いずれも大木7b~8a式期に比定される土器である。47は小波状口縁を呈し撚糸の側面圧痕や隆帯が口縁を巡り、48~52は沈線や隆線による区画文や曲線文をもつ土器で大木8a式に比定される土器である。



第17図 その他の遺構出土遺物

## (5) 包含層出土遺物

出土遺物のはとんどが包含層から出土したもので、整理箱で15箱を数える。縄文中期前葉から中葉にかけての土器が大半を占め、土偶2点、石錐2点、石匙2点、搔器1点、削器3点、三脚石器2点、垂飾品1点、磨製石斧1点、凹石5点、磨石1点、その他の石器2点が出土した。

**土 器 第1群土器**（第18図53～81、図版6） 口縁部が隆帯や縄の側面圧痕および沈線で区画され、交互刺突が加えられ大木7b式に比定される土器を本群とする。53～56は口縁に隆帯が巡り刺突が施される深鉢の口縁で、55・56は波状を呈する。57～69・74は口縁に隆帯と縄の側面圧痕で区画される深鉢で、58・59・61は波状を呈し、74は浅鉢である。75・76・78は沈線や交互刺突で区画され75・76は波状口縁で75には橋状の取手が付く。71～73・77・79～81は体部破片で隆帯や結節縄文による垂下文が施される。

**第2群土器**（第18図82～96、図版7） 口縁に隆帯が巡り刺突や短い縄の圧痕が施され、第1群土器と第2群土器の文様の特徴を併せもつ土器を本群とする。82～88は隆帯と短い縄の圧痕が口縁を巡る。89～92・96は隆帯と刺突が施され、93～95は口縁に波状の隆帯をもち、95は口端と口縁を巡る波状隆帯を連結する隆帯が付き大木8a式特有のS字状隆帯を想起させる。

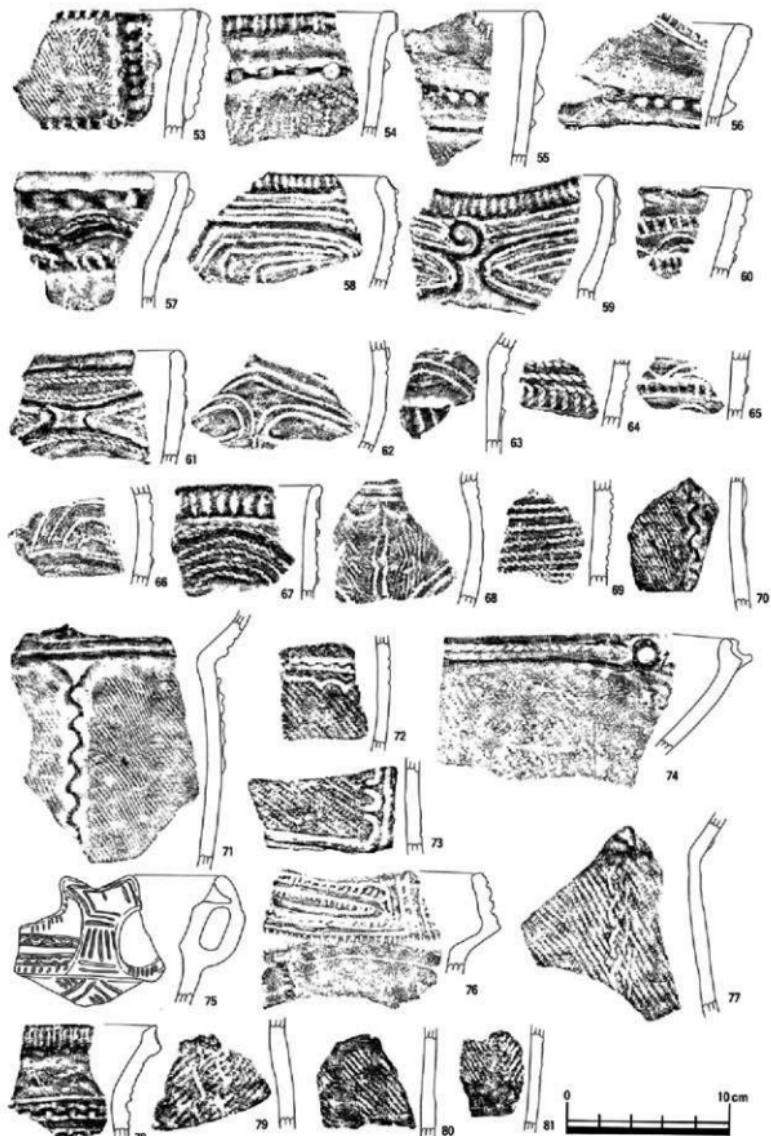
**第3群土器**（第19図97～111、第20図112～130、図版7・8） 口縁に刺突を伴う隆帯をもち、交互刺突や刺突文、縄の圧痕が巡り、体部には沈線・隆線による曲線・渦巻・クランク状文が施され大木8a式に比定される土器を本群とする。97～106・116は口縁に隆帯・刺突・沈線・交互刺突が施される深鉢で97・103の口縁には隆帯による横位のS字状文をもつ。107・108～110、124・126～129は沈線による曲線や渦巻文が、111・112・117～122・123・125・130には沈線と隆線で、113～115は隆線で曲線やクランク状文が施される。

**第4群土器**（第20図131～135、図版8） 半截竹管による半隆起線で区画され、直線や曲線文をもち北陸地方の新崎式に比定される土器を本群とする。131は半截竹管による垂線区画に渦巻・直線文が施される。132は突起状の波状を呈し、沈線と半截竹管による垂線が見られる。133・134は口縁が「く」字状に屈曲する浅鉢で口縁を巡る半隆起線間に三角形の沈刻をもつ。135は半隆起線下に三角形の沈刻が施される。

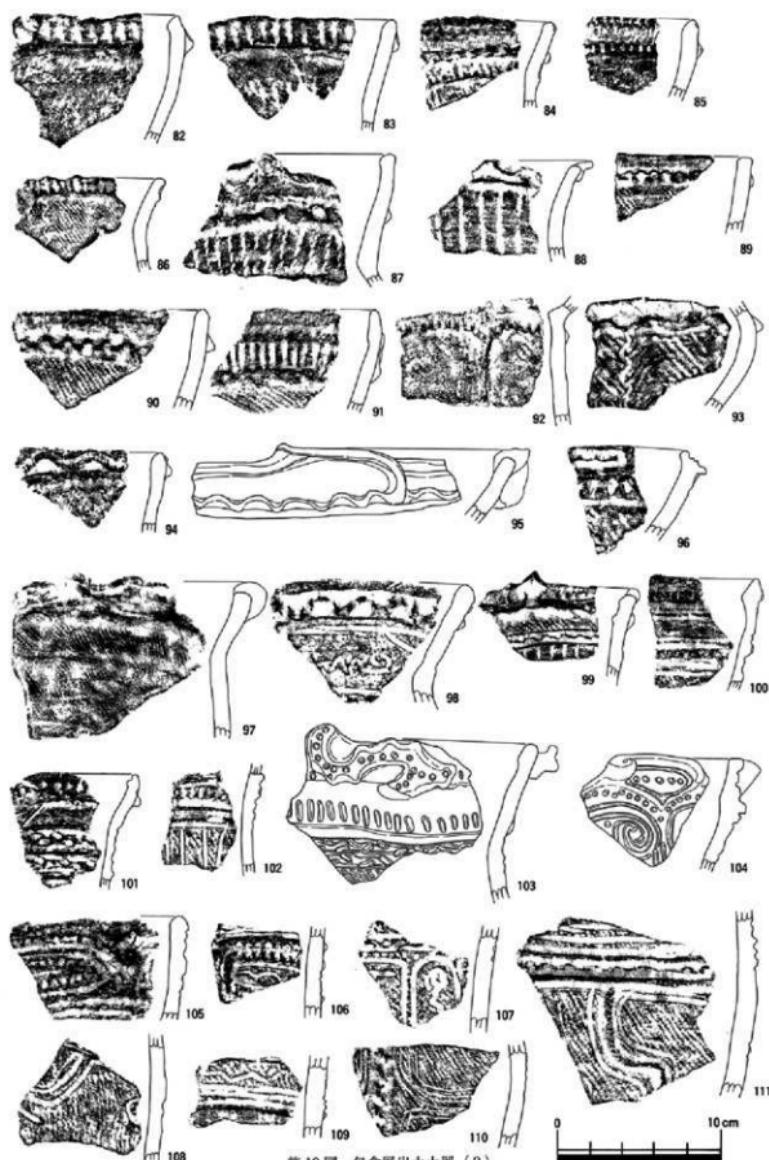
**第5群土器**（第20図136～138、図版8） 第1群から第3群に伴う土器底部で網代痕が付く土器である。

**土 偶**（第21図15・16） いずれも板状土偶で15は胸部で乳房の下に沈線が付く。長さ5.1cm。16は腹部で、膨らんだ腹部の周囲には列点状の沈線が巡り、腹部と背中には沈線が垂下する。長さ6cm。

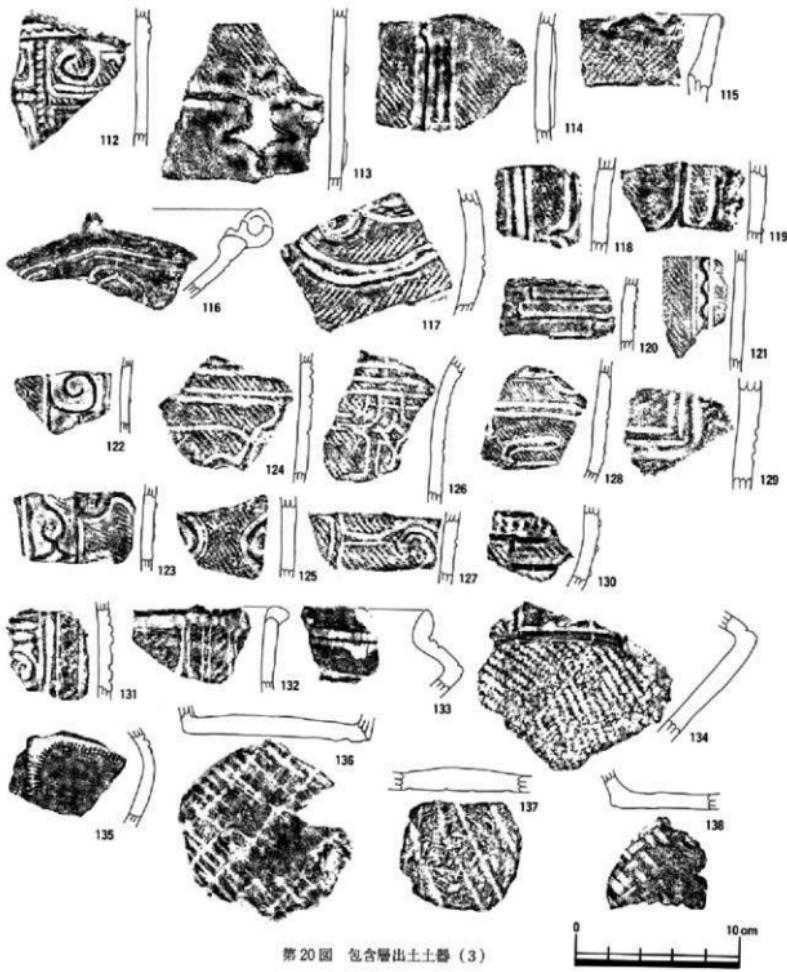
**石 器**（第21図、図版10） 1・2は剥片の先端に剥離を施し刃部を作出した石錐で、1は長さ4.7cmで石質は頁岩、2は長さ4.8cmで石質は石英安山岩である。3・4は頁岩製の石匙。3は縱長剥片の一辺に剥離を加え刃部を作出し長さ7.0cm、4は周囲を刃部に加工し長さ7.1cm。5は剥片の先端に剥離を加え刃部を作出した搔器で長さ4.2cm、石質は石英安山岩。6～8は削器で頁岩の縱長剥片の両側邊から先端にかけて刃部をもつ。長さは6が9cm、7が3.4cm、8が6.5cm。9・10は三脚石器で厚みのある剥片に三方向から抉るような剥離が施される。長さ（底辺から頂部まで）と石質は9が3.5cm、頁岩、10は6.1cm、石英安山岩。11は石槍状の石器で長さ5.7cm石質は頁岩。12は断面が三角形を呈する舟底状の石器で長さ5.1cm石質は石英安山岩。14は磨かれた扁平な鍬の中央に孔が穿たれ、上下左右の4箇所から抉りを加え逆剝状の突起が4基作られた石製品である。突起は一部を欠損するものの両面に溝状の加工が施され、穿孔を有する突起もあり垂飾品と考えられる。長径6.1cmで石質は石英安山岩。13は磨製石斧で刃部を欠損するが折れ面に剥離が加えられており刃部再生の剥離痕と考えられる。長さ15.5cm、石質は細粒花崗岩。17は楕円形を呈



第18圖 包含層出土土器(1)

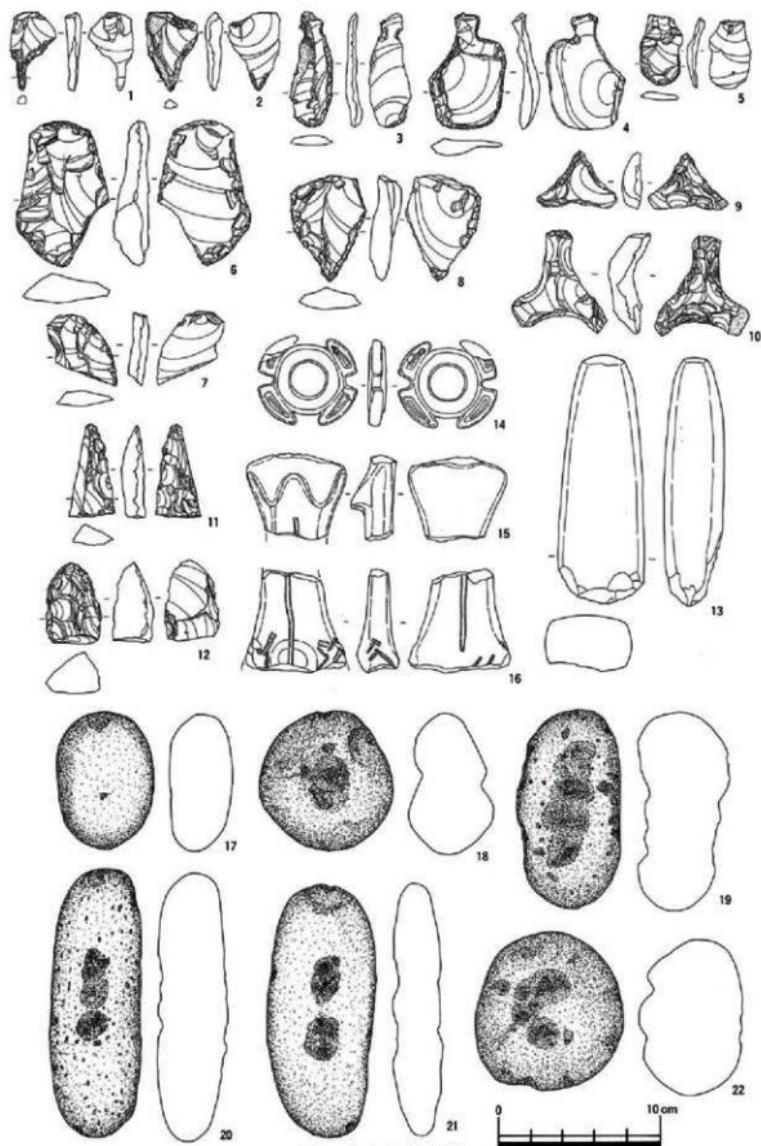


第19圖 包含層出土土器(2)



第20図 包含層出土土器（3）

し両面に磨痕をもつ磨石で長さ8.4cm。18～22は凹石である。18は円形を呈し両面に深い窪みをもち長さ8.6cmで石質は花崗閃綠岩。19は楕円形を呈し両面に複数の深い窪みをもち長さ12.2cmで石質は石英安山岩。20は長楕円形を呈し両面に浅い複数の窪みをもち長さ16.5cm、石質は石英安山岩。21は楕円形を呈する扁平な砾の両面に2ヶ所の窪みをもち長さ15.7cm、石質は細礫岩。22は円形を呈し片面に複数の窪みをもち長さ9.7cm石質は花崗岩。



第21図 包含層出土遺物



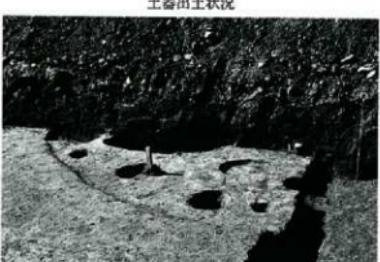
調査区近景（南から）



土器出土状況



J - 5 区 土層断面



1号住居跡



1・2号土坑検出状況



左 同

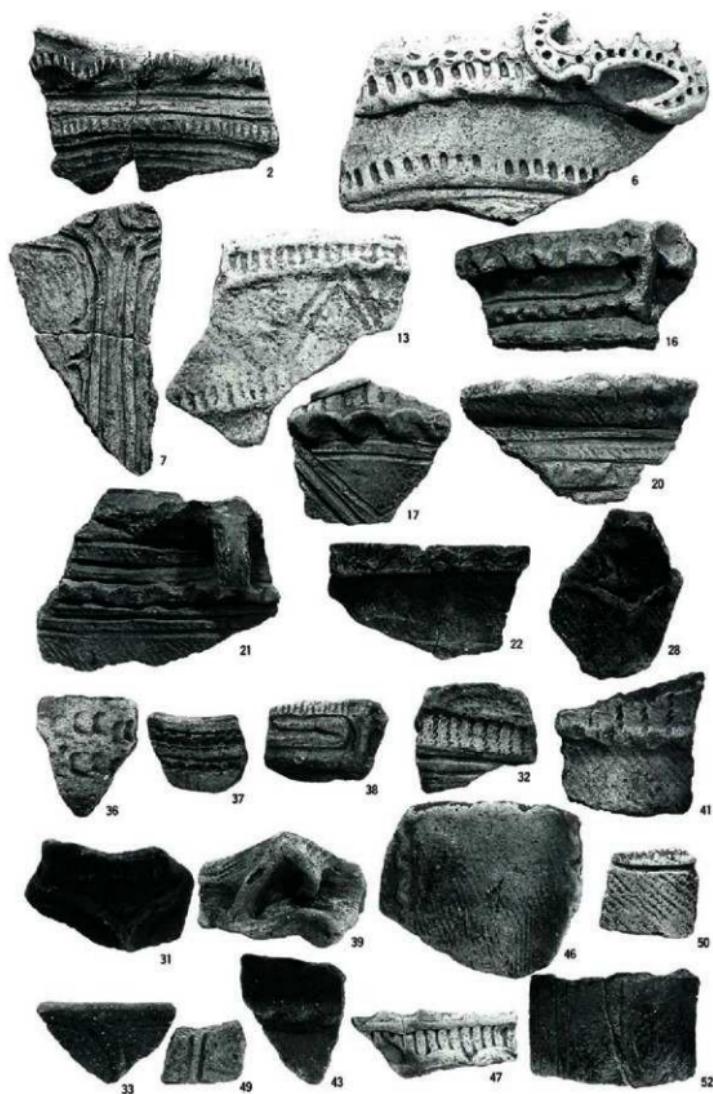


性格不明遺構



3号土坑

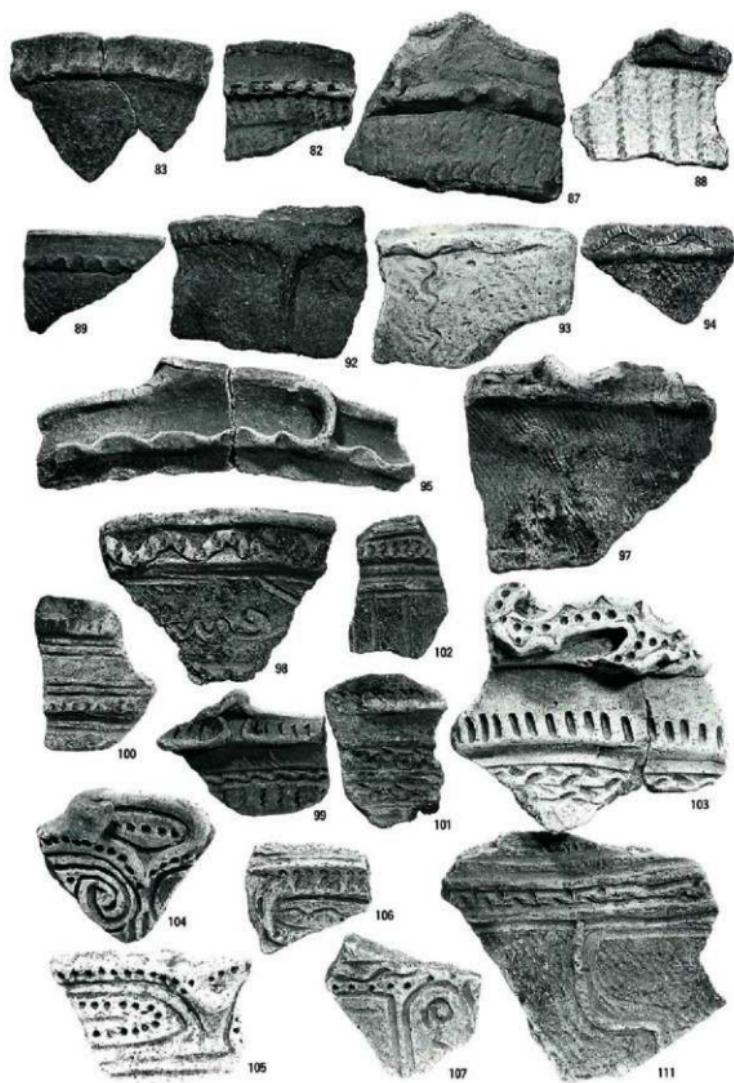
図版 5 宮遺跡



图版6 宫遗址出土土器(1)



図版7 宮遺跡出土土器(2)



圖版 8 宮遺跡出土土器 (3)



圖版 9 宮遺跡出土土器 (4)



図版 10 宮遺跡出土石器

## 6. 中里遺跡

所在地 長井市草岡地内

調査期間 平成 14 年 5 月 10 日～31 日

起因事業 遺跡台帳整備

遺跡環境 長井市市街地の北西部、通称西山山ろくに位置する。古代の丘資料館の東側にあたり遺跡の北側を久川が流れ、周辺には縄文中期の半截木柱遺構で知られる長者屋敷遺跡がある。昭和 58 年に道路改良工事に伴う緊急発掘調査、平成 13 年に遺跡台帳整備に係る試掘調査が行われ縄文時代中期から晩期の遺物が出土し、とりわけ縄文晩期の土器が主体を占める。

調査状況 試掘調査で遺構・遺物が密集して検出された区域を調査対象とし  $4 \times 4$  m のグリッド方式を用い、東西方向を X 軸とし A～E 区を設定し、南北方向を Y 軸とし 1～7 区を設定した。表土の除去は重機を用いて行い、遺構・遺物の検出は手掘りで行った。

調査結果 縄文時代の土坑 50 基を検出し、遺物は整理箱で 12 箱が出土した。また、検出した土坑の東側においても土坑プランを確認したが、発掘は将来の調査に委ねることとした。遺物は表土層直下から多数検出され、搅乱もほとんど見られることから遺存状況はきわめて良好と考えられる。また、A～E 区で深掘りを行ったところ、下層から新たな遺物包含層が確認された。土器文様の特徴から縄文後期末の包含層と推定され、縄文後期末から晩期前葉にかけて主体をなす遺跡と考えられる。しかし、土坑群が検出されたものの住居跡が見つかっていないため集落構造の把握には至っていない。



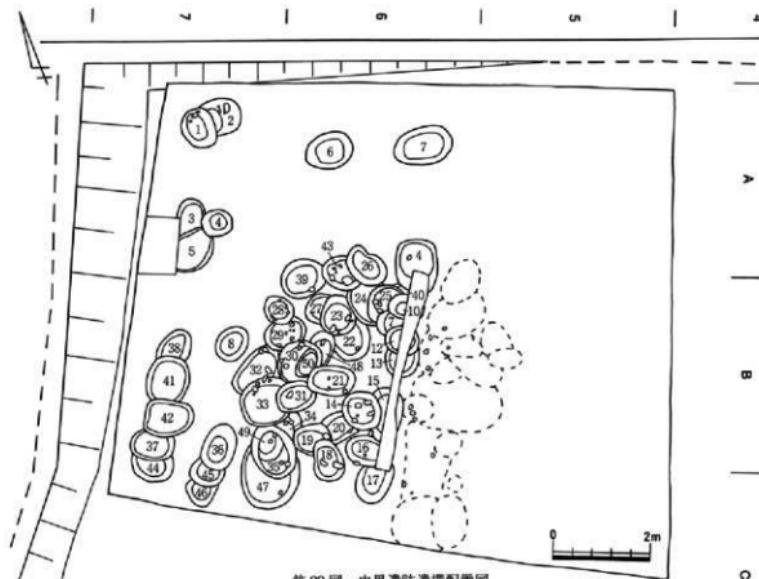
第 22 図 中里遺跡概要図

## 1. 土坑

このたびの調査で 50 基の土坑を検出した。土坑の分布は調査区中央部で著しい重複関係をもち密集した状態で検出され、さらにそれらを取り囲むように重複または単体で、調査区西側隅では連なった状態で検出された。検出面は表土層直下の茶褐色土で平面形態はほとんどが梢円形を呈し、プランを検出するにあたり多くの土器と拳大の砾を伴うが、砾の配置に規則性は認められなかった（第 23 図）。また、土坑の重複関係は土層断面の切合い状況にもとづいたが、遺構の新旧関係と土器型式の内容が一致するには至っていない。

土坑の機能を述べるにあたり各土坑の遺物出土状況を記してみる。19 号土坑では上位壁面に沿って 10 ~ 20 cm の砾が 6 個連なって検出され、20 号土坑では大型の土器片が砾を伴って検出された。また、48・50 号土坑では直径約 20 cm の扁平砾が蓋をする状態で土坑壁際からそれぞれ検出されている（第 24 図）。しかし、各土坑から多量の遺物が出土しているが、人骨や埋設土器それに装飾品の出土は認められず、主体を占めるのが粗製土器である。出土層位を見るとほとんどが土坑覆土の上位からの出土であり、ついで中位と続き底面からの出土遺物はほとんど見られない。精製土器・粗製土器とも完形品の出土は数点を数えるだけで、比較的まとまった形で出土した土器でも押しつぶされた状態で検出された。出土した石器は基部や刃部を欠損した磨製石斧や未製品の石斧、熱を受けて変質した凹石も見られる。また、ほとんどの土坑から炭化したクリの実が多く出土しているのも特徴のひとつである。

これらのことから本土坑群は 19・20・48・50 号土坑のように砾や土器の出土に人為的な要素は見られるものの、遺物の出土状況や出土層位、埋設土器の欠如等から、本調査区における土坑群の機能はゴミ捨て場的要素が強いと推測される。



第 23 図 中里遺跡遺構配置図

表1 土坑一覧表

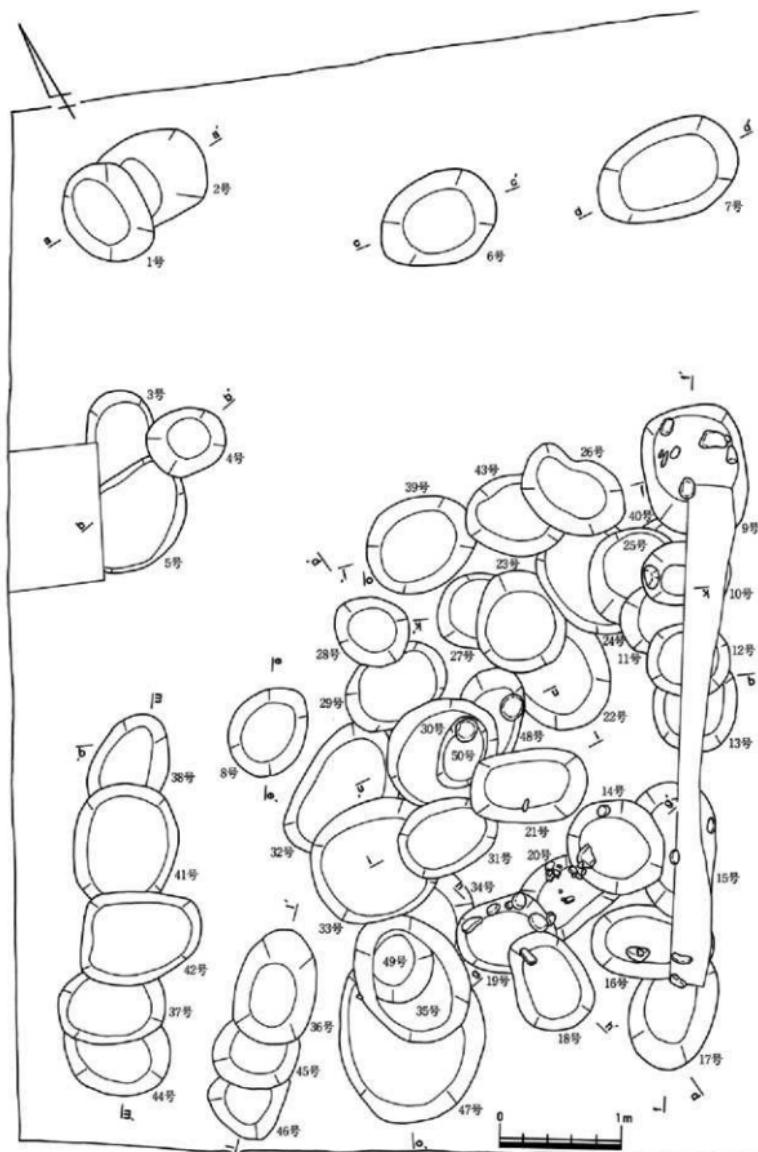
&lt; &gt; 検定形態、単位cm、( ) 現存値

土坑 No	位 置	形 態 長軸方向	規 模 長軸×短軸	深 底	覆 土・遺 物・新旧関係
1	A - 7	楕円形 北-南	85×68	38	覆土 1は茶褐色土 売化物を多く含む 2は暗茶褐色土 3は暗灰茶褐色土 砂質土 壓器破片・大洞B2、BC式 新旧関係 2号土坑より新しい
2	A - 7	(楕円形) 東-西	(61)×75	40	覆土 1は茶褐色土 売化物を多く含む 2は暗茶褐色土 壓器 砂質土 壓器破片・大洞B1、B2式 新旧関係 1号土坑より古い
3	A - 7	(楕円形) 北東-南西	(70)×55	33	土器 土器破片・大洞 新旧関係 4号5号土坑との新旧関係は不明
4	A - 7	楕円形 東-西	65×54	34	覆土 1は茶褐色土 売化物を多く含む 2は暗茶褐色土 砂質土 壓器破片・後期末、大洞B2 新旧関係 5号土坑より新しい
5	A·B - 7	(楕円形) 東北東-南南西	(98)×76	32	覆土 1は暗茶褐色土 粘性を帯び上位に堆の縁を含む 2は暗灰茶褐色土 石器 砂質土 新旧関係 4号土坑より古い
6	A - 6	楕円形 東-西	102×75	43	覆土 1は茶褐色土 2~5mmの大の炭化物を多く含む 2は暗茶褐色土 指痕大の縁を多く含む 土器 土器片・後期末、大洞B2、BC 石器 石核
7	A - 6	楕円形 東-西	121×78	42	覆土 1は茶褐色土 炭化物を5cmの大の縁を多く含む 2は暗茶褐色土 3は暗灰茶褐色土 茶褐色土をブロック状に含む 土器 土器破片・大洞B1、B2、BC式 石器 石核
8	B - 7	椭円形 北東-南西	78×63	51	覆土 1は茶褐色土 炭化粒子を多く含む 2は暗茶褐色土 小縁と炭化物を多く含む 3は茶褐色土 砂質土でしりて弱い 土器 土器破片・後期末、大洞B1
9	A·B - 6	楕円形 北北東-南南西	(102)×84	22	覆土 1は暗茶褐色土 売化物、堆の縁を多く含む 新旧関係 40号土坑より新しい 土器 土器破片・大洞B1、B2式
10	B - 6	楕円形 南南東-北北西	(73)×53	43	覆土 1は暗茶褐色土 5cmの大の縁と土器片を多く含む 土器破片・大洞B1 新旧関係 11-14号土坑より新しい
11	B - 6	(楕円形) 東南東-西北西	(54)×(42)	26	覆土 1は暗茶褐色土 炭化物を多く含む 土器破片・後期末、大洞B1式 石器 石核 新旧関係 10-12号土坑より古い
12	B - 6	楕円形 北西-南東	69×59	21	覆土 1は暗茶褐色土 5mmの大の炭化物を多量に含む 土器破片・大洞B2式 新旧関係 11-13号土坑より新しい
13	B - 6	(楕円形) 北北東-南南西	(47)×(69)	32	覆土 1は暗灰茶褐色土 1cmの大の炭化物を多く含む 土器破片・晚期前業 新旧関係 12号土坑より古い
14	B - 6	楕円形 北北東-南南東	85×78	26	覆土 1は暗茶褐色土 5cmの大の縁を多く含む 2は暗灰茶褐色土 3は茶褐色土 砂質土 土器破片・大洞B1式 石器 磨石 新旧関係 20号土坑より新しい
15	B - 6	楕円形 北東-南西	(110)×50	30	覆土 1は暗灰茶褐色土 2~5cmの大の炭化物を多く含む 土器破片・大洞B1式 新旧関係 16号土坑より新しいが14号との新旧関係は不明
16	B - 6	(楕円形) 東南東-西北西	101×60	39	覆土 1は暗茶褐色土 炭化物を多く含む 土器破片・大洞B1式 石器 磨石 15号土坑より古く17号土坑より新しい
17	B·C - 6	楕円形 北東-南西	(73)×70	27	覆土 1は茶褐色土 2は暗茶褐色土 3は暗灰茶褐色土 土器 土器破片・大洞B1、晚期前業 新旧関係 16号土坑より古い
18	B C - 6	楕円形 北北東-南南西	85×64	29	覆土 1は暗茶褐色土 売化物を多量に含む 2は暗灰茶褐色土 砂質土 土器 土器破片・後期末、大洞B1式 石器 石核 新旧関係 19号土坑より新しい
19	B - 6	楕円形 東南東-西北西	77×(61)	31	覆土 1は茶褐色土 2は暗灰茶褐色土 炭化物がレンズ状に堆積する 3は暗茶褐色土 砂質土 土器 土器破片・後期末、大洞B1、B2式 新旧関係 18号土坑より古く20号土坑より新しい
20	B - 6	(楕円形) 東-西	(60)×59	34	覆土 1は暗灰茶褐色土 売の縁を多く含む 2は暗灰茶褐色土 砂質土 土器 土器破片・大洞B1、B2、BC式 新旧関係 14-19号土坑より古い
21	B - 6	楕円形 北西-南東	96×62	32	覆土 1は暗茶褐色土 炭化物を多量に含む 2は暗灰茶褐色土 土器 土器破片・大洞B1、B2式 石器 石核、浮子 新旧関係 31号土坑より新しいが30-48号土坑との新旧関係は不明
22	B - 6	(楕円形) 北-南	(58)×80	33	土器 土器破片・後期末、大洞B1、B2式 石器 磨石 24号土坑より古く27号土坑より新しいが22-26、43号土坑との新旧関係は不明
23	B - 6	楕円形 北東-南西	74×84	31	覆土 1は暗茶褐色土 2は暗灰褐色土 5mmの大の炭化物を多く含み20cmの大の粘土塊が混入する 土器 土器破片・大洞B1式 石器 磨石 四石 新旧関係 24号土坑より古く27号土坑より新しいが22-26、43号土坑との新旧関係は不明
24	B - 6	(楕円形) 北-南	(93)×(70)	29	覆土 1は暗茶褐色土 2は暗灰褐色土 5mmの大の炭化物を多く含む 2は暗茶褐色土 5cmの大の縁を多く含む 土器 土器破片・大洞B1式 新旧関係 25号土坑より古く23号土坑より新しいが22-26、43号土坑との新旧関係は不明
25	B - 6	(楕円形) 北東-南西	(78)×(62)	39	覆土 1は暗灰褐色土 5cmの大の縁を多く含む 2は茶褐色土 売の縁を多く含む 土器 土器破片・後期末、大洞B1、B2-BC式 石器 磨石 球状石器 24号土坑より古く新しいが10-11、40号土坑との新旧関係は不明
26	A·B - 6	椭円形 北西-南東	81×64	39	覆土 1は暗茶褐色土 5cmの大の縁と炭化物を多く含む 2は暗灰茶褐色土 砂質土 土器 土器破片・後期末、大洞B1、B2-BC式 石器 球状石器 新旧関係 43号土坑より新しいが24号土坑との新旧関係は不明

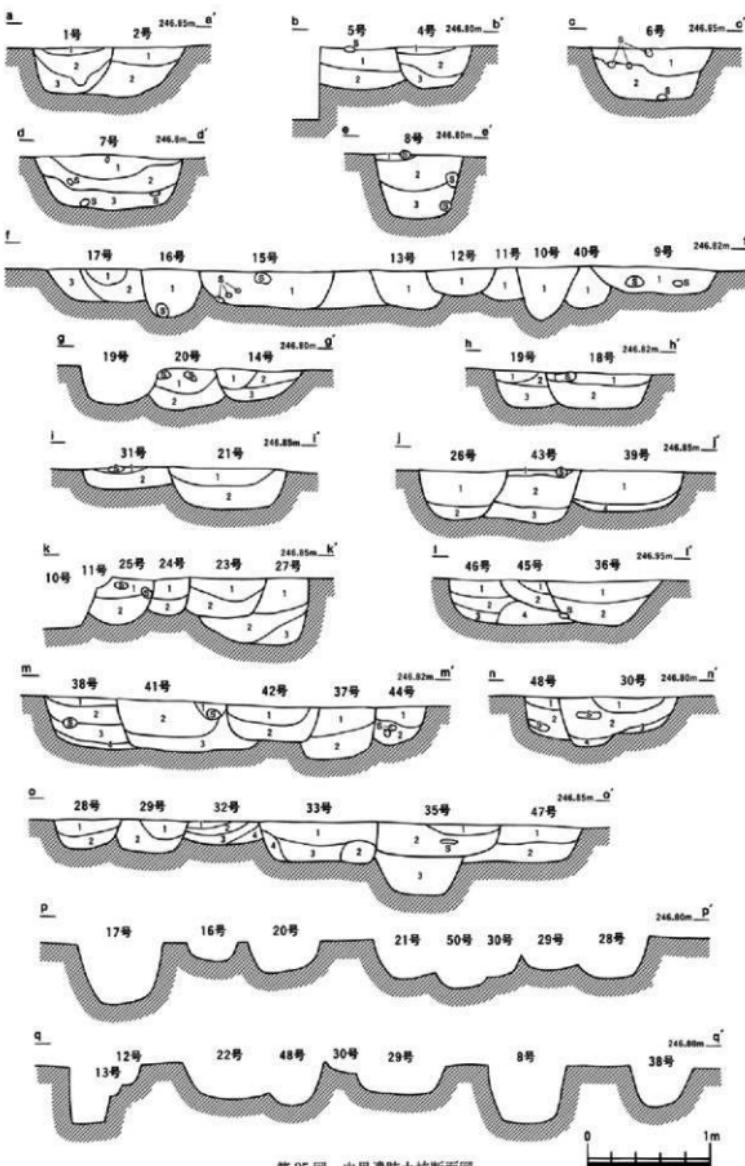
表2 土坑一覧表

&lt; &gt; 推定形態、単位cm、( ) 現存値

土坑 No.	位 置	形 狽 長軸方向	規 模 長軸×短軸	深さ	覆 土・遺 物・新旧関係
27	B-6	楕円形 西北西-東南東	(33)×61	55	覆土 1は暗茶褐色土 2は灰茶褐色土 腐化物を若干含む 3は暗灰褐色土 砂質土 土器 土器破片・大洞B1・BC式 石器 磨石、瓦石 新旧関係 23号土坑より古い
28	B-6-7	楕円形 北西-南東	62×55	24	覆土 1は暗茶褐色土 腐化物を多く含む 2は灰茶褐色土 砂質土 土器 土器破片・大洞B1・BC式 新旧関係 29号土坑より新しい
29	B-6-7	楕円形 東-西	89×(57)	27	覆土 1は暗茶褐色土 5cmの大の縦と横化物を含む 2は灰茶褐色土 砂質土 5cmの大の縦を若干含む 土器 土器破片・後期末、大洞B1、B2式 新旧関係 32号土坑より新しい 28号土坑より古いが 30号土坑との新旧関係は不明
30	B-6	円形 東-西	96	29	覆土 1は黒褐色土 腐化物を含む 2は暗灰褐色土 5cmの大の縦を若干含む 3は灰褐色土 砂質土 土器 土器破片・後期末、大洞B1、B2式 石器 四石 新旧関係 48号土坑より新しいが 21・31・32号土坑との新旧関係は不明
31	B-6	楕円形 東-西	(85)×61	17	覆土 1は暗茶褐色土 腐化物を含む 2は暗茶褐色土 土器 土器破片・大洞B1式 新旧関係 21号土坑より古く 30・33・34号土坑との新旧関係は不明
32	B-6-7	(椭円形) 東北東-西南西	(120)×(75)	19	覆土 1は暗茶褐色土 腐化物を含む 2は灰茶褐色土 3は暗灰褐色土 5cmの大の縦を若干含む 4は茶褐色土 土器 土器破片・後期末、大洞B1式 新旧関係 29・33号土坑より新しいが 30号土坑との新旧関係は不明
33	B-6-7	(椭円形) 東南東-西北西	(100)×(98)	34	覆土 1は茶褐色土 腐化物を含む 2は灰茶褐色土 茶褐色土をブロック状に含む 3は灰茶褐色土 4は暗茶褐色土 土器 土器破片・大洞B1、BC式 石器 鑿状石器 新旧関係 32・35号土坑より新しいが 31・38号土坑との新旧関係は不明
34	B-6-7	(椭円形) 不明	(58)×(48)		土器 土器破片・大洞B1、BC式 石器 磨製石斧 新旧関係 19-31-33・35・49号土坑と重複するが新旧関係は不明
35	B-C- 6-7	楕円形 南-北	(112)×87	26	覆土 1は茶褐色土 2は暗茶褐色土 腐化物と橙色土を多く含む 土器 土器破片・後期末、大洞B1、B2、BC式 石器 四石 新旧関係 33号土坑より古く 47・49号土坑より新しい。34号土坑と重複するが新旧関係は不明
36	B-C-7	楕円形 北京-南西	96×66	36	覆土 1は暗茶褐色土 腐化物を多く含む 2は暗灰褐色土 1cmの大の腐化物を若干含む 土器 土器破片・大洞B1、B2、BC式 石器 磨製石斧 新旧関係 45号土坑より新しい
37	B-7	楕円形 西北西-東南東	88×(58)	42	覆土 1は茶褐色土 2は暗茶褐色土 土器 土器破片・大洞B1、B2、BC式 石器 四石 新旧関係 42号土坑より古く 44号土坑より新しい
38	B-7	楕円形 北東-南西	(56)×61	41	覆土 1は茶褐色土 2は暗茶褐色土 灰化物を多量に含む 3は暗茶褐色土 2-5cmの大の縦を含むは茶褐色土 砂質土 土器 土器破片・後期末、大洞B1、B2式 石器 鑿状石器 新旧関係 41号土坑より古い
39	A-B- 6-7	楕円形 東-西	(93)×77	32	覆土 1は暗茶褐色土 孝家の縦と茶褐色土をブロック状に含む 灰化物を多く含む 2は暗灰茶褐色土 土器 土器破片・大洞B1・B2・BC式 石器 鑿状石器 磨製石斧 新旧関係 43号土坑より古い
40	B-6	不明		35	覆土 1は黒褐色土 土器 土器破片・大洞B1式 新旧関係 9-10号土坑より古い
41	B-7	楕円形 北京-南西	(90)×86	41	覆土 1は茶褐色土 5cmの大の縦を多く含む 2は暗茶褐色土 腐化物を多く含む 3は暗灰茶褐色土 土器 土器破片・大洞B1式 新旧関係 42号土坑より古く 38号土坑より新しい
42	B-7	楕円形 東南東-西北西	96×77	28	覆土 1は茶褐色土 腐化物を多く含み砂層がレンズ状に堆積する 2は暗茶褐色土 砂質土 灰化物で腐化物を多く含む 土器 土器破片・後期末、大洞B1式 新旧関係 37-41号土坑より新しい
43	A-B-6	(椭円形) 東南東-西北西	(82)×68	31	覆土 1は茶褐色土 2は暗茶褐色土 腐化物を多く含む 3は暗茶褐色土 土器 土器破片・大洞B2、BC式 石器 有製石斧未製品 新旧関係 26号土坑より古く 30号土坑より新しい
44	B-C-7	(椭円形) 東南東-西北西	87×(45)	31	覆土 1は茶褐色土 腐化物を多く含む 2は暗茶褐色土 5cmの大の縦を含む 土器 土器破片・後期末、大洞B1式 新旧関係 37号土坑より古い
45	B-C-7	(椭円形) 北西-南東	69×(40)	23	覆土 1は暗灰褐色土 5cmの大の腐化物を多く含む 2は暗灰褐色土 3は暗灰茶褐色土 土器 土器破片・大洞B1、BC式 新旧関係 36号土坑より古く 46号土坑より新しい
46	C-7	(椭円形) 東北-西南西	(62)×62	36	覆土 1は暗茶褐色土 2は暗灰褐色土 腐化物を多く含む 3は暗灰茶褐色土 3cmの大の縦を含む 4は茶褐色土 土器 土器破片・大洞BC式 新旧関係 45号土坑より古い
47	B-C- 6-7	楕円形 北北東-南南西	(112)×121	30	覆土 1は暗茶褐色土 腐化物を多く含む 2は灰茶褐色土 砂質土 土器 土器破片・後期末、大洞B2、BC式 新旧関係 35号土坑より古い
48	B-6	(椭円形) 北西-南東	(65)×53	33	覆土 1は暗灰褐色土 土器をブロック状に含む 2は暗灰茶褐色土 1cmの大の小縦を多く含む 新旧関係 22号土坑より新しく 30号土坑より古い
49	B-6-7	(円形)	(60)	31	土器 土器破片・大洞BC式 石器 磨製石斧 新旧関係 35号土坑より古い
50	B-6	楕円形 北東-南西	62×(34)		新旧関係 30号土坑より古い



第24図 中里遺跡土坑平面図



第25図 中里遺跡土坑断面図

## 2. 出土遺物

中里遺跡から出土した遺物は整理箱にして 10 箱を数え、約 8 割強の遺物が土坑から出土したものである。出土遺物は縄文時代後期末から晩期前葉の時期にわたっており、とりわけ晩期初頭の土器が主体を占めている。以下、土器分類および石器の概要を記し、造構出土遺物、包含層出土遺物に分けて説明を行う。なお、出土した土器は小破片であるため、文様の分類を主体とし器種の明記は省略したものもある。

### 土 器

#### 第1群土器 縄文時代後期末の土器

口縁部に縄文や刺突が帶状に施され貼瘤をもち、口縁には山形状の突起が付けられ頂部が分割され肥厚したものもある。瘤付土器第IV段階の土器を含むものを縄文後期末の土器を本群とする。

#### 第2群土器 縄文時代晩期初頭の土器

第1類 大洞B 1式土器を本類とする。

第2類 大洞B 1式に並行する土器を本類とする。

第3類 大洞B 2式土器を本類とする。

#### 第3群土器 縄文晚期前葉の土器 大洞B C式土器を本群とする。

#### 第4群土器 1～3群土器に並行する土器で、粗製土器、その他の土器。

#### 土製品 土偶脚部2点、粘土塊1点が出土している。

### 石 器

石錐1点、石錐2点、石匙3点、匏状石器7点、打製石器(未製品)1点、磨製石斧7点(未製品1点を含む)、垂飾品1点、浮小2点、石棒2点、磨石4点、凹石5点の他、剥片・碎片が整理箱にして2箱出土した。

**1号土坑出土遺物**(第26図1～3、図版12) 1は鉢の口縁で頂部を横位の沈線で区画し、口縁に三叉文をもつ大洞B 2式土器。2は口縁に左傾する羊齒状文が施される鉢で、3は浮き彫り的な曲線文をもつ皿。2・3とも大洞B C式土器である。

**2号土坑出土遺物**(第26図4～6、図版12) 4は入組文をもつ大洞B 1式土器。5は小波状の口縁下に入組み三叉文が施される深鉢で、6は入組文をもつ土器でいずれも大洞B 2式土器である。

**4号土坑出土遺物**(第26図7～9、図版12) 7・8は口縁に帶状の刺突文が施される土器で後期末に比定される。9は文様帶を横位の沈線で区画した土器で大洞B 2式土器である。

**5号土坑出土遺物**(第26図10～13、第36図448、図版12、21) 10・11は皿の底部で11は口縁に沈線が巡る。12は頂部がくびれる鉢、13は緩線が施される深鉢で底部には網代痕が見られる。いずれも第4群土器である。448は三角形を呈する横長の石匙で頁岩の剥片を素材とし幅6.2cm。

**6号土坑出土遺物**(第26図14～19、第37図470、図版12、22) 14は口縁に山形の突起をもち肥厚した頂部が2分された土器で瘤付土器第IV段階に比定される。15～18は沈線や沈刻による三叉文が配された大洞B 2式土器。19は左傾する羊齒状文をもつ体で大洞B C式土器。470は石棒で上・下部を欠損しているが丁寧に磨き上げられている。石質は粘板岩で長さ8.1cm。

**7号土坑出土遺物**(第26図20～28、第36図449、図版12、21) 20～25は三叉文をもつ土器で、21・25は沈刻の玉抱き風三叉文が施された大洞B 1式土器である。26・27は小波状を呈する口縁をもち26はB突起が

見られ、横位の沈線で区画された口縁部には三叉文が施されている大洞B 2式土器。28は入組状の左傾する羊齒状文をもつ大洞B C式土器の皿である。449は横長の石匙で主要剥離面から背面にかけて加工が施されている。幅6.7cmで石質は頁岩。

**8号土坑出土遺物**（第26図29～37、図版12）29～32は口縁部に刺突が帯状に施されたものや貼瘤をもつ土器で後期末に比定される。33～35は横位の沈線で区画を施し充填繩文・磨消繩文で繩文帯を形成する土器で、大洞B 1式土器に並行する土器である。36・37は体部に繩文が施され口端に刻みや山形状の突起を有する土器で第4群土器である。

**9号土坑出土遺物**（第26図38～40、図版12）38は小波状の口縁に三叉文をもつ深鉢で大洞B 1式土器。39は口頭部を沈線で区画・研磨した土器で三叉文が配され、40は口頭部を沈線で区画した土器で両者とも大洞B 2式土器である。

**10号土坑出土遺物**（第27図41～44、図版13）41は小波状の口縁をもち頭部がくびれ三叉文が施される深鉢で大洞B 1式土器。42～44も同一固体である。

**11号土坑出土遺物**（第27図45～47、図版13）45は口端が肥厚し沈線による刻みと凹線が付き、口縁は沈線で区画された繩文帯が横位に巡り2個の貼瘤をもつ。後期末に比定される。46は小波状の口縁をもち頭部がくびれ三叉文が施される土器、47は入組文をもつ土器で、両者とも大洞B 1式土器である。446は有茎の石錐で両面に細かい剥離が施される。長さ3.9cmで石質は頁岩。

**12・13号土坑出土遺物**（第27図48・49、図版13）48は12号土坑出土で、2条の沈線で文様帯の区画がなされた大洞B 2式土器。49は体部に綾繩文が施された深鉢で第4群土器である。

**14号土坑出土遺物**（第27図50～56、第37図472、図版13、22）50～53・56は入組文や三叉文をもつ土器、54・55は沈線による横位区画に列点が施される土器でいずれも大洞B 1式土器である。472は円形の磨石で両面に磨面をもつ。長さ7.8cmで石質は細粒花崗岩。

**15号土坑出土遺物**（第27図57、図版13）57は小波状口縁の波形に沿って八の字状の繩文帯が施された大洞B 1式土器である。

**16号土坑出土遺物**（第27図58～68、第37図473、図版13、21）58～64は同一固体で小波状の口縁を呈し沈刻した王抱き状三叉文や入組文をもつ。65は小波状口縁の波形に沿って八の字状の繩文帯が施された土器、66・68は横位の沈線で区画された繩文帯をもつ土器、67は王抱き三叉文をもつ土器でいずれも大洞B 1式土器である。473は梢円形を呈する磨石で長さ13.6cmで石質は花崗閃緑岩。

**17号土坑出土遺物**（第27図69～73、図版13）69は沈刻した三叉文をもつ土器で大洞B 1式土器。70は小波状の口縁下に三叉文が施された鉢で文様帯の区画に沈線が巡らされる大洞B 2式土器。71～73は口端に刻目が付けられ小波状を呈し、2条の沈線で区画された口縁部を数状の波状沈線が巡る深鉢で、晚期前葉の土器であろう。

**18号土坑出土遺物**（第27図74～81、第36図450、図版13、21）74は山形状突起の頂部が二分され直下に三叉状の沈刻文が施される土器で、後期末に比定される。75・77は口端に沿って横位の繩文帯をもつ土器で大洞B 1式に並行する土器である。76・78～80は17号土坑出土の71～73と同様の土器である。81は深鉢の底部で底面に網代痕が付く土器である。450は横長の石匙でつまみ部を欠損するが刃部作出の剥離が両

面に施されている。幅6cmで石質は頁岩。

**19号土坑出土遺物**（第28図82～88、図版14）82は刻目文帯を有する土器で後期末に比定される。83～85は横位沈線に区画された縄文帯をもち86は眼鏡状の弧線文をもつ土器でいずれも大洞B1式土器である。87は小波状口縁下の研磨した口頸部に三叉状文が施される大洞B2式土器、88は深鉢の底部で底面に網代痕が付く土器で第4群土器である。

**20号土坑出土遺物**（第28図89～99、図版14）89～94は小波状の波形に沿って八の字状の縄文帯が施されるのも、三叉文をもつ土器で、大洞B1式土器である。95は沈線区画の研磨された口縁に沈刻文をもつ大洞B2式土器である。96は無文の大型深鉢、97～99は深鉢の底部で網代痕や木葉痕が付く。

**21号土坑出土遺物**（第28図100～104、第36図447、第37図469、図版13、21）100・101は口縁に沿って横位の縄文帯が、102・103は入組文が施される土器でそれぞれ大洞B1式土器。104は小波状の口縁部に三叉文をもつ大洞B2式土器。447は石錐で横長の剥片の一端に加工を施し刃部を作出し石材は頁岩で長さ6.5cm。469は輕石製で両面と縁辺部を磨いた円形もしくは楕円形の浮子であろうか。

**22号土坑出土遺物**（第28図105～113、第37図462、図版14、21）105は山形状突起の頂部が二分され沈線の区画に縄文帯をもつ土器、106は貼瘤をもつ土器でそれぞれ瘤付土器第IV段階に比定される。107～110は八の字状の縄文帯が施される土器、111は貼瘤で繋がれた横長列点文の土器でいずれも大洞B1式土器。112は2条の沈線で文様帯を区画した大洞B2式土器、113は左傾する羊齒状文をもつ大洞BC式土器である。462は厚みのある磨製石斧で刃部を欠損する。基部に敲打痕を残し、長さ12.8cmで石質は閃綠岩。

**23号土坑出土遺物**（第28図114～121、第37図474・475、図版14、22）114～116は貼瘤で繋がれた横長列点文の土器、横位の縄文帯をもつ土器、玉抱き状の三叉文をもつ土器でいずれも大洞B1式土器である。117は頸部がすさまじい浅鉢、118は斜縄文がつく深鉢、119・120は小波状の口縁下に沈線で区画された無文帯を有する深鉢、121は縦縄文をもつ深鉢でいずれも晩期前葉の土器に比定される。474は楕円形を呈する磨石で長さ13.4cm。石質は石英安山岩。475は楕円形を呈する凹石両面に凹部を形成する。長さ12.3cm、石質は花崗閃綠岩。

**24号土坑出土遺物**（第28図122～126、図版14）122～124は横位の沈線で区画し磨消縄文や充填縄文で縄文帯を形成する土器で大洞B1式土器である。125は綾縄文をもつ深鉢、126は深鉢の底部で底面にササ葉の圧痕が見られ第4群土器である。

**25号土坑出土遺物**（第29図127～146、第31図452、図版15、21）127は沈線区画に刻目帯をもつ土器で後期末に比定される。128～137は同一固体で小波状の口縁をもち頸部がくびれ三叉文が施される深鉢、138・139は入組文をもつ土器でいずれも大洞B1式土器である。140・141は口縁に横位の沈線が巡る薄手の土器で大洞B2式からBC式の土器。142～145は斜縄文がつく深鉢で、146は深鉢の底部。452は楕状石器で刃部を欠損するが両側刃から器中央に向けて剥離が施されている。長さ5.5cmで石質は頁岩。

**26号土坑出土遺物**（第29図147～164、第36図453、図版15、21）147～151は肥厚した口端に刻目帯をもつ土器で151は連鎖状の沈線が施文され、いずれも後期末の土器である。152～157は横位の沈線で区画された縄文帯をもち157は横位の列点文が施文され、大洞B1式土器である。158は2条の沈線で区画された文様帯に三叉文が施された鉢、159は入組状の沈線が施される土器でいずれも大洞B2式土器。160は沈線間

に列点が施文される小型の鉢で大洞B C式土器である。161・162は縦縞文をもつ深鉢、163は無文の深鉢、164は網代痕跡のある深鉢底部でいずれも第4群土器である。453は籠状石器で刃部を欠損する。折れ面には表裏両面から剥離が加えられ刃部作出が試みられたのであろうか。長さ4.8cmで石質は頁岩。

**27号土坑出土遺物**（第29図165～170、第37図476・477、図版15、22）165は小波状の口縁をもち横位の玉抱き三叉文をもつ大洞B 2式土器。167は沈線間に列点が施文される小型の鉢で大洞B C式土器である。168～170は斜縞文・縦縞文をもつ深鉢で第IV群土器。476は楕円形を呈する磨石。長さ9.1cmで石質は細粒花崗岩。477は円形を呈する凹石。片面に凹部を有し端部を欠損する。長さ7.7cm石質は花崗閃緑岩。

**28号土坑出土遺物**（第29図171～180、図版15）171は体部が球形にちかい注口土器の注口部、172～178は横位の沈線や曲線で区画された縄文帯をもつ土器でいずれも大洞B 1式土器である。179は沈線間に列点文が施された土器で大洞B C式土器、180は薄手の深鉢で斜縞文が施文された第4群土器である。

**29号土坑出土遺物**（第30図181～192、図版16）181・182は口端に沿って刻目が施文され貼瘤をもつ後期末の土器である。183～189は曲線や直線で区画された縄文帯をもつ土器でいずれも大洞B 1式土器である。190は口端に突起をもち研磨された口縁に三叉文が施される大洞B 2式土器。191・192は第4群土器で斜縞文が施文された深鉢、口端が小波状を呈する深鉢である。

**30号土坑出土遺物**（第30図193～203、第37図478・479、図版16、22）193はボタン状の貼瘤をもつ後期末の土器。194～202は沈線で区画された縄文帯をもち197には横位の列点文が施される。いずれも大洞B 1式土器。203は小波状の口縁に沈線で区画された縄文帯をもつ大洞B 2式土器。478・479は楕円形を呈する凹石。478は長さ11.7cmで石質は細粒花崗岩。479は長さ8.8cmで石質は花崗閃緑岩。

**31号土坑出土遺物**（第30図204・205、図版16）204は眼鏡状の弧線文をもつ土器で大洞B 1式土器。205は口縁が小波状を呈する深鉢で第4群土器である。

**32号土坑出土遺物**（第30図206～227、図版16）206は刻目帯をもつ後期末の土器。207・208は波状口縁の土器で沈線による入組文が施され貼瘤をもつ。209は波状口縁の頂部が3分され、三叉状の沈刻と横位沈線の間には指頭圧痕による隆帯が付き、210～219は三叉文・入組文・沈線で区画された縄文帯をもつ土器でいずれも大洞B 1式土器である。220～227は羽状縄文・格子目文・無文の深鉢で第4群土器である。

**33号土坑出土遺物**（第30図228～239、第36図454、図版16、21）228～231は沈線で区画した縄文帯や入組文をもつ土器で大洞B 1式土器。232～234は口縁に横位の平行沈線が巡る土器、截痕列が施される土器で大洞B C式。235～238は縦縞文・無文の深鉢、239は低部に網代痕が付く第4群土器である。454は籠状石器で器中央に向か粗い剥離が施されるのみで未製品の可能性もある。長さ10.1cmで石質は硅質頁岩。

**34号土坑出土遺物**（第31図240～246、第36図460、図版17、22）240～243は入組文や三叉状の沈刻文をもつ大洞B 1式土器である。245は口縁に左傾する羊歯状文が施される大洞B C式土器。244は縦縞文が施文され、246は無文の深鉢で第4群土器である。また、指の痕跡が残る粘土塊も出土している（図版17）。460は磨製石斧で基部を欠損し、側辺に敲打痕を残す。長さ7.6cm、石質は砂岩。

**35号土坑出土遺物**（第31図247～256、第37図480、図版17、22）247はボタン状の貼瘤をもつ後期末の土器。248・249は沈線で区画された縄文帯をもつ土器で大洞B 1式土器。250は口端に刻目がつき口縁に入組三叉文が見られる大洞B 2式土器。251は注口土器の頸部で沈線の入組文をもつ大洞B C式土器。252～

255 は格子目文・綾繩文・斜繩文が施文される深鉢、256 は台部でいずれも第 4 群土器である。480 は楕円形を呈する凹石で両面に凹部をもち両端に敲打痕が残る。長さ 9.2 cm で石質は花崗閃緑岩。

36 号土坑出土遺物（第 31 図 257～269、第 36 図 463、図版 17、21） 257～259 は沈線で区画した繩文帯や入組文をもつ土器で大洞 B 1 式土器。260 は小波状口縁に沈刻した三叉文が施され、261 は横位の繩文帯に列点文をもちいずれも大洞 B 2 式土器である。262 は注口土器の口縁で点列文や沈線が巡り口端には小突起が付き、263・264 は口縁に 2 条の沈線が巡り口端に小突起が付く鉢で、265 は口縁に截痕列が施される土器でいずれも大洞 B C 式である。266～268 は綾繩文が 269 は格子目文が施文された第 4 群土器である。463 は表裏両面に剥離痕と敲打痕が残る石器で基部を欠損する。磨製石斧の未製品と考えられる。長さ 8.7 cm で石質は粉岩。

37 号土坑出土遺物（第 31 図 270～275、第 37 図 481・482、図版 17、22） 270～272 は三叉文や入組文をもつ大洞 B 1 式土器。273 は小波状口縁で沈刻文が施された大洞 B 2 式土器。274 は口縁に截痕列が施された鉢で大洞 B C 式土器。275 はオオバコを回転施文した深鉢で第 4 群土器。481・482 は楕円形を呈する凹石で両面に凹部を有する。481 は長さ 9.9 cm で石質は花崗閃緑岩。482 は長さ 10.5 cm で石質は石英質砂岩。

38 号土坑出土遺物（第 31 図 276～290、第 36 図 455・456、図版 17、21） 276 は口縁に爪形状の刻目帯をもつ後期末の土器。277 は貼瘤、278・279・280 は三叉状の沈刻文、281～284 は沈線で区画した繩文帯や入組文をもつ土器で大洞 B 1 式土器。285～287 は小波状口縁を呈し研磨した口縁には三叉文が沈刻される鉢で大洞 B 2 式土器。288 は綾繩文、289 は斜繩文、290 は掲糸文が施文される深鉢で第 4 群土器である。455 は竈状石器で刃部が摩滅し光沢を帯びている。長さ 7.5 cm で石質は珪質頁岩。456 は竈状石器で器中央に向けて粗い剥離が施される。長さ 9.9 cm で石質は珪質細粒凝灰岩。

39 号土坑出土遺物（第 31 図 291～303、第 36 図 457、464、図版 17、21） 291～295 は三叉文や入組文を、296 は眼鏡状の隆帯をもつ大洞 B 1 式土器である。297・298 は研磨した口縁に三叉文が沈刻される鉢で大洞 B 2 式土器。299 は口縁に截痕列をもつ鉢、300 は体部に右傾する羊歯状文をもつ香炉型土器でいずれも大洞 B C 式である。301・302 は斜繩文が施文された深鉢で、303 は土偶の脚である。457 はシャモジ状を呈する打製石斧で長さ 8.8 cm、石質は頁岩である。464 は磨製石斧で円錐の剥片を素材とし両面に剥離痕と敲打痕を残す。長さ 10.9 cm で石質は細粒閃緑岩。

40 号土坑出土遺物（第 32 図 304～308、図版 18） 304～306 は三叉文の沈刻が施された大洞 B 1 式土器。307・308 は斜繩文が施文された深鉢で第 4 群土器。

41 号土坑出土遺物（第 32 図 309～315、図版 18） 309～314 は三叉文や入組文が沈刻された大洞 B 1 式土器。315 は綾繩文が施文された深鉢で第 4 群土器である。

42 号土坑出土遺物（第 32 図 316～327、図版 18） 316 は口縁に刻目帯を 317 は刻目帯の下位に沈線区画の入組文が施され小型の貼瘤をもつ。いずれも後期末の土器である。318～322 は玉抱き状の三叉文や沈線区画の繩文帯が施され大洞 B 1 式土器。324～326 はオオバコの実を回転施文した擬似繩文をもつ深鉢、327 は網代痕が付く深鉢の底部で第 4 群土器である。

43 号土坑出土遺物（第 32 図 328～332、第 36 図 458、図版 18、21） 328 は 2 条の沈線で区画した口部に三叉文が施された深鉢で大洞 B 2 式土器。329 は口縁に截痕列状の刻みを施し口縁の 2 条の沈線が巡る大洞 B C 式の鉢。331 は小波状を呈する深鉢、332 は深鉢の底部で第 4 類土器。458 は表裏両面に剥離が施された

大型剥片で、一端を欠損するが器中央に向けての剥離痕を残す。打製石器未製品か。長さ 9.1 cm、石質は泥岩である。

44 号土坑出土遺物（第 32 図 333 ~ 337、図版 18） 333 は口端に刻目をもち瘤状の突起が付く後期末の土器。334・335 は玉抱き風三叉文をもつ大洞 B 1 式土器。336 は縦縞文の深鉢、337 は台部で第 4 群土器。

45 号土坑出土遺物（第 32 図 338 ~ 342、図版 18） 338・339 は小波状口縁に沿って八字状の縄文帯をもつ大洞 B 1 式土器。340・341 は三叉文や入組文をもつ大洞 B C 式の注口土器。342 は無文の鉢で第 4 群土器。

46 号土坑出土遺物（第 32 図 343 ~ 347、図版 18） 343 は入組文をもつ大洞 B C 式の鉢。344 は口縁に沈線が巡る深鉢、345・347 は斜縞文・無文の深鉢で第 4 群土器である。

47 号土坑出土遺物（第 33 図 348 ~ 353、図版 19） 348 は刻目帯と入組文をもつ後期末の土器。350 は三叉状入組文が施される大洞 B 2 式土器。349 は口端に刻目をもち口縁に入組文が施される大洞 B C 式の鉢。351 は縦縞文をもつ深鉢、352 は底部に網代痕が付く深鉢。353 は台部でいずれも第 4 群土器である。

48 号土坑出土遺物（第 33 図 354 ~ 355、図版 19） 354・355 は縦縞文をもつ深鉢で第 4 群土器である。

49 号土坑出土遺物（第 33 図 356 ~ 361、第 36 図 461、図版 19） 356 は左傾する羊齒状文をもつ大洞 B C 式の鉢。357 は口縁に沈線が巡る深鉢、358・360 は斜縞文・縦縞文をもつ深鉢、361 は深鉢底部でいずれも第 4 群土器。461 は剥離痕と敲打痕が残る磨製石斧で、長さ 8.7 cm。石質は玢岩。

### 3. 包含層出土遺物（第 34 ~ 37 図、図版 19 ~ 22）

第 1 群土器（第 34 図 362 ~ 371、図版 19） 刺突・刻目帯や縄文帯で入組文が形成される土器で、364 には瘤状の突起が、366・367・370 には貼痕が見られる。

第 2 群 1 類土器（第 34 図 372 ~ 402、図版 19） 372 ~ 389 は彫刻的な三叉文が施され、390 ~ 396 は入組文が、397 ~ 402 は眼鏡状の隆帯や点列文が横位施される。

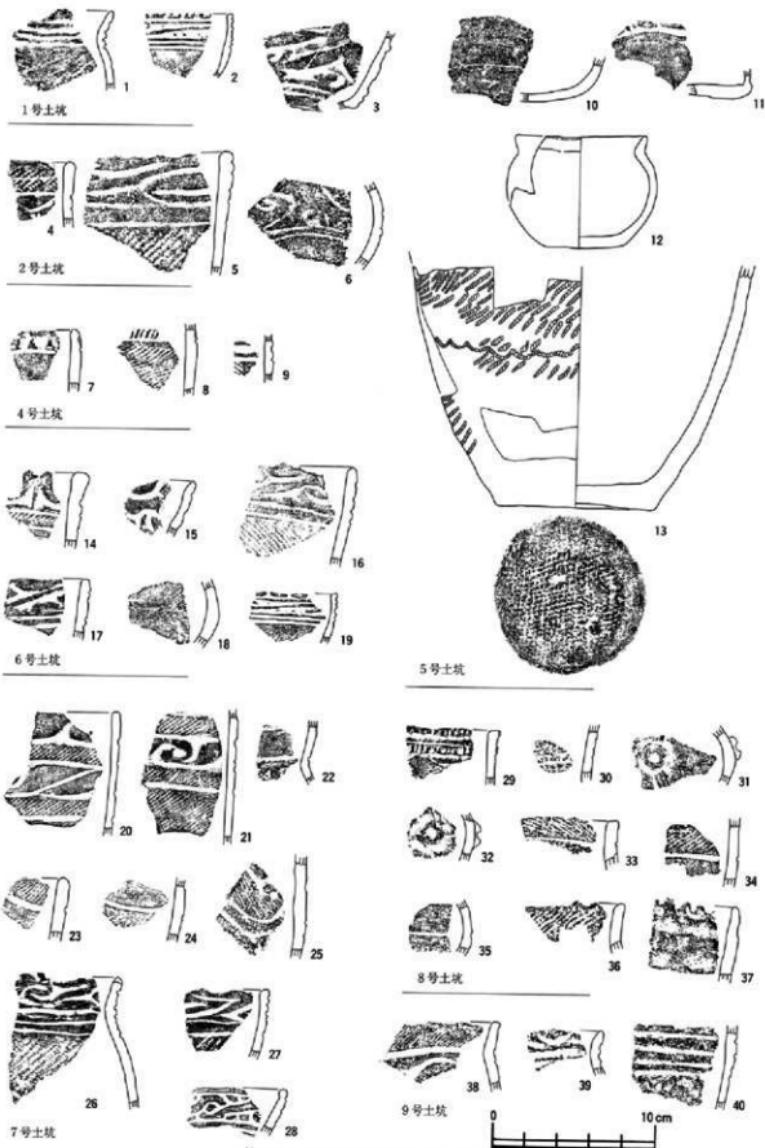
第 2 群 2 類土器（第 35 図 403 ~ 411、図版 20） 横位の沈線で区画を施し充填縦文・磨消縦文で縄文帯を形成する。口縁に縄文帯をもつものと（403）もたない土器（405・406）がある。

第 2 群 3 類土器（第 35 図 412 ~ 419、図版 20） 口頸部を沈線で区画・研磨し、入組文状の三叉文が施される。414 ~ 416 は小波状の口縁を呈する土器である。

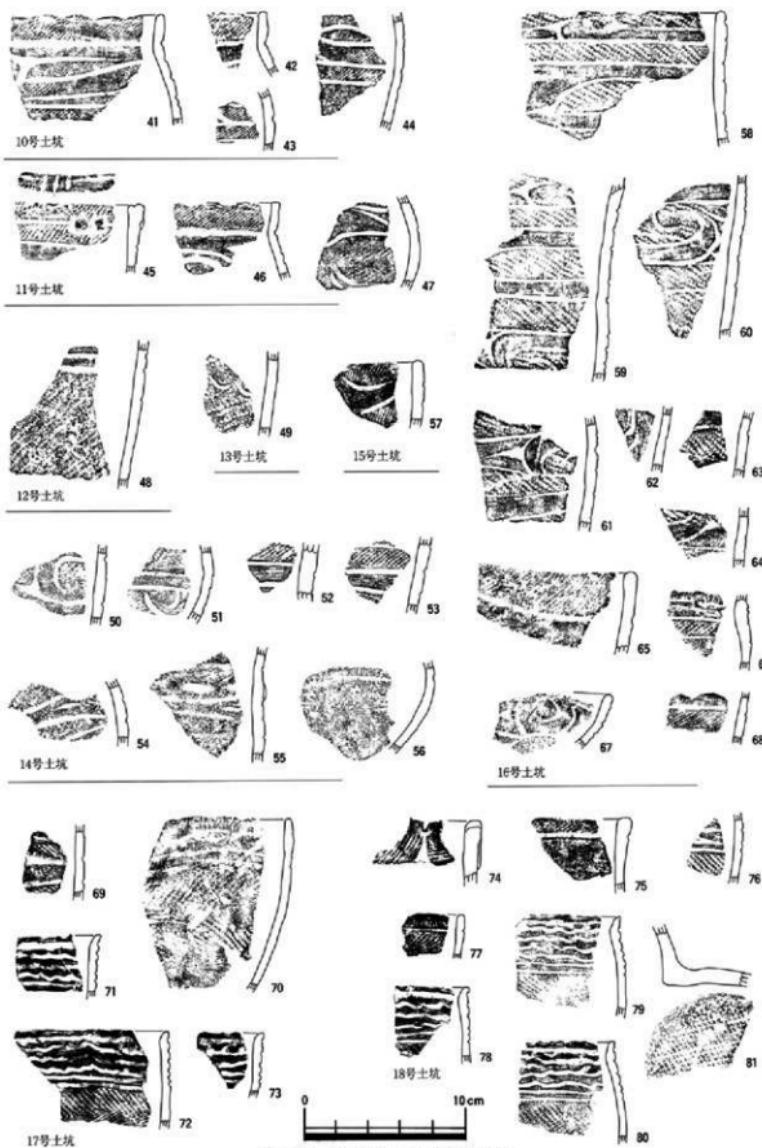
第 3 群土器（第 35 図 420 ~ 424、図版 20） 420 ~ 422 は沈線で区画した口頸部に左傾する羊齒状文をもつ土器で、423 ~ 424 は数条の沈線帯に斜位の点列が施文されている。

第 4 群土器（第 35 図 425 ~ 444、図版 20） 425 ~ 430 は斜縞文、431 ~ 433 は縦縞文、434 ~ 435 は羽状縞文、436 はオオバコによる擬似縞文、437 は格子状文が施文される深鉢。439 ~ 443 は土器底部および台部、438 と 444 は無文の深鉢とミニチュア土器で、445 は扁平な土偶の足で端部に刻みを付け指を表している。

石 器 451 は石錐で縦長剥片の端部に剥離が加えられている。長さ 8.5 cm で石質は頁岩。459 は笠状石器で横長の剥片を用いている。長さ 7.5 cm 石質は頁岩。465 は磨製石斧で刃部を欠損する。長さ 12.5 cm で石質は細粒閃綠岩。466 は磨製石斧で基部を欠損し、両刃には敲打痕を残す。長さ 6.6 cm で石質は玢岩。467 は梢円形を呈する垂飾品で両面がていねいに磨かれ長軸に沿って穿孔を施す。長さ 6.8 cm で石質は粘板岩。468 は軽石製の浮子で端部に穿孔が施されている。長さ 8.2 cm。471 は粘板岩を素材としたし石棒で両側面に棱を形成する。長さ 10.4 cm。483 は磨石を転用した凹石で長さ 9.5 cm、石質は花崗閃綠岩。



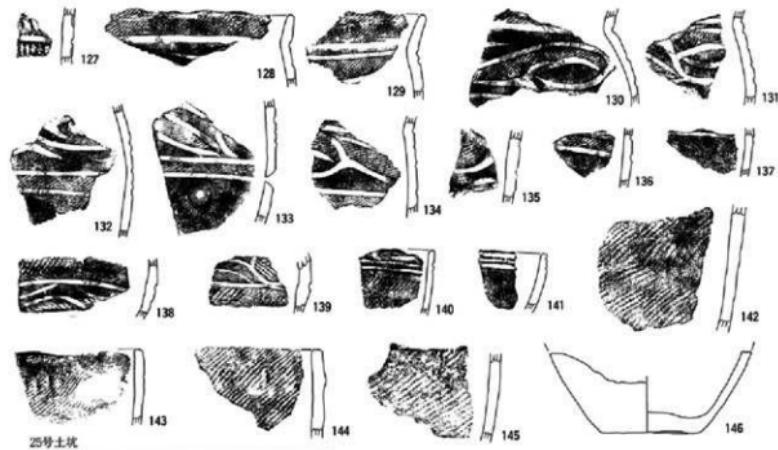
第26圖 中里遺跡土坑出土土器（1）



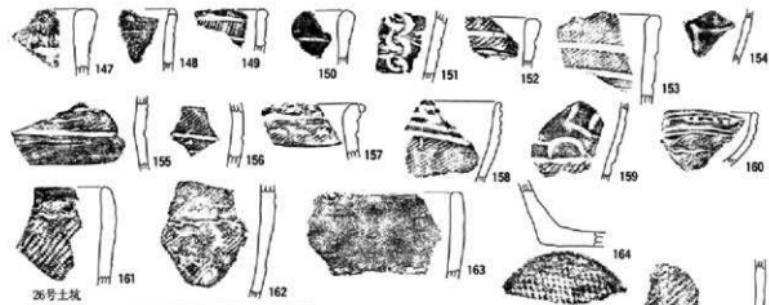
第27图 中里遗址土坑出土土器(2)



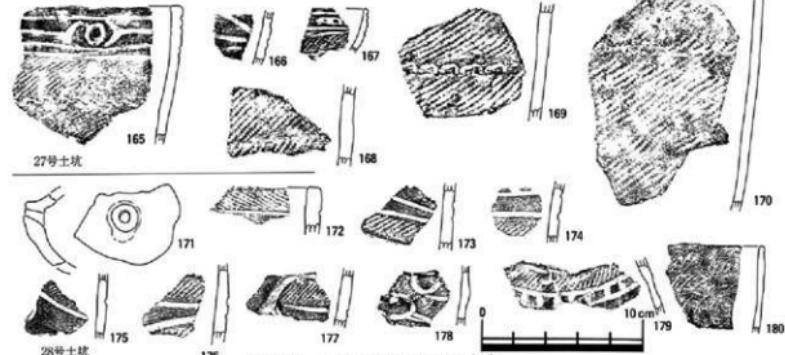
第28圖 中里遺跡土坑出土土器 (3)



25号土坑



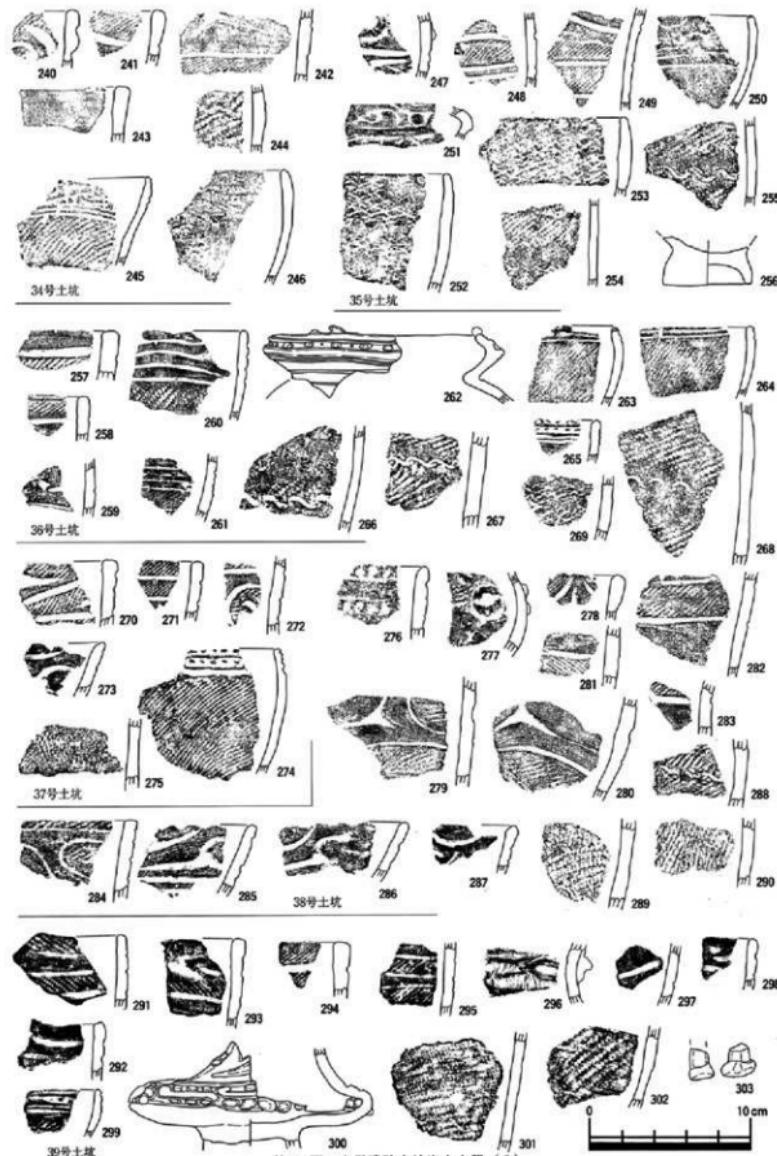
26号土坑



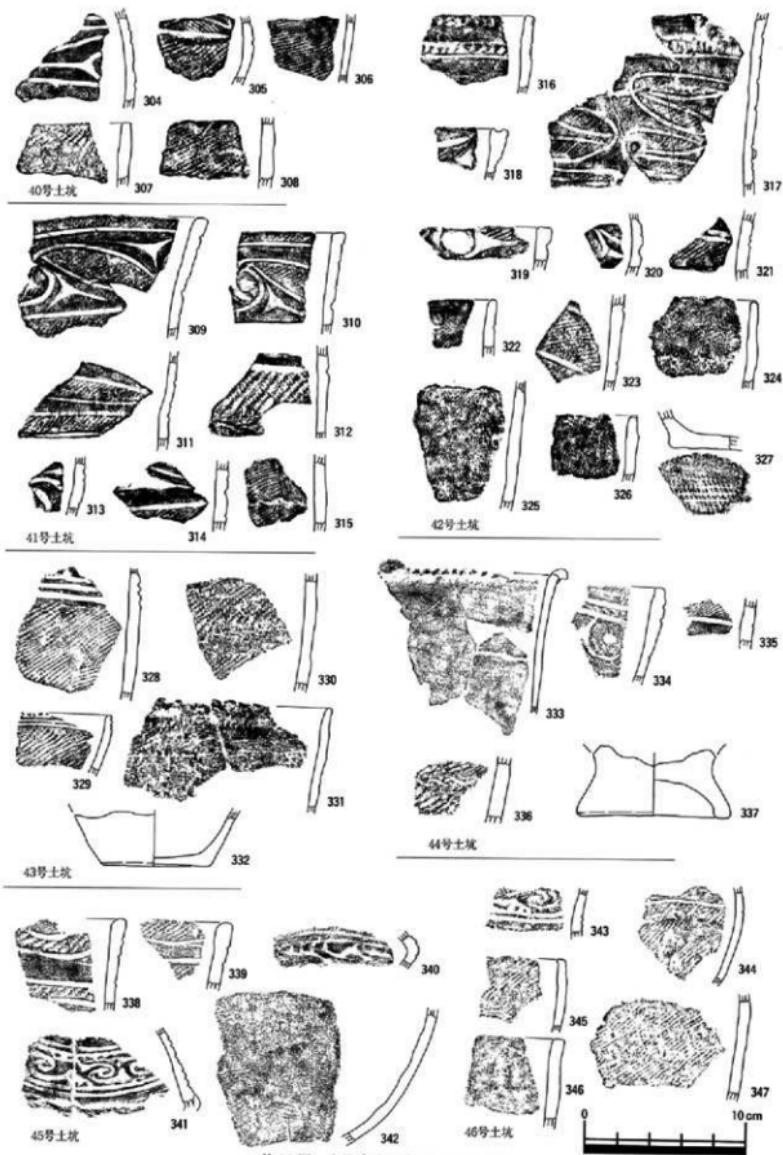
第29図 中里遺跡土坑出土土器(4)



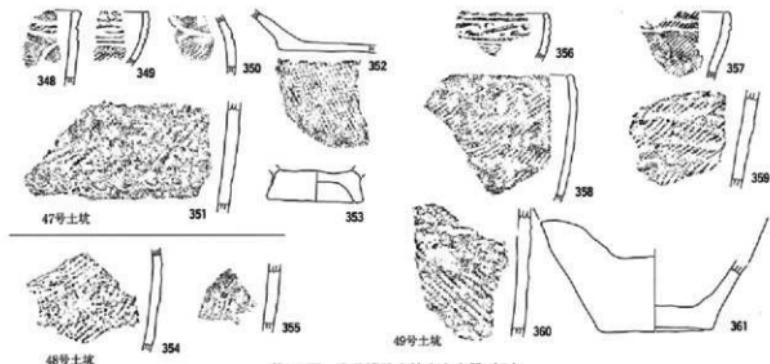
第30圖 中里遺跡土坑出土土器（5）



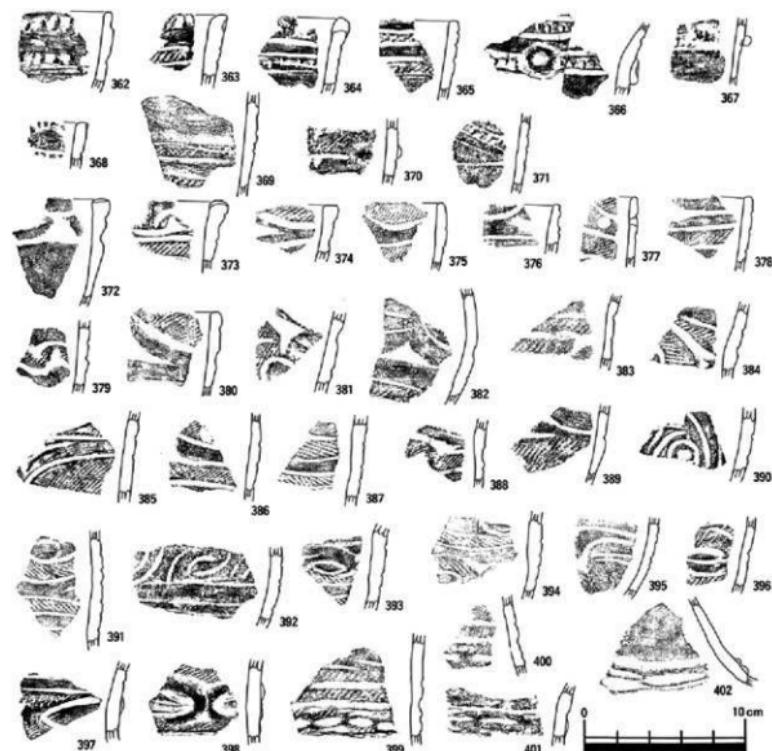
第31图 中里遗址出土土器 (6)



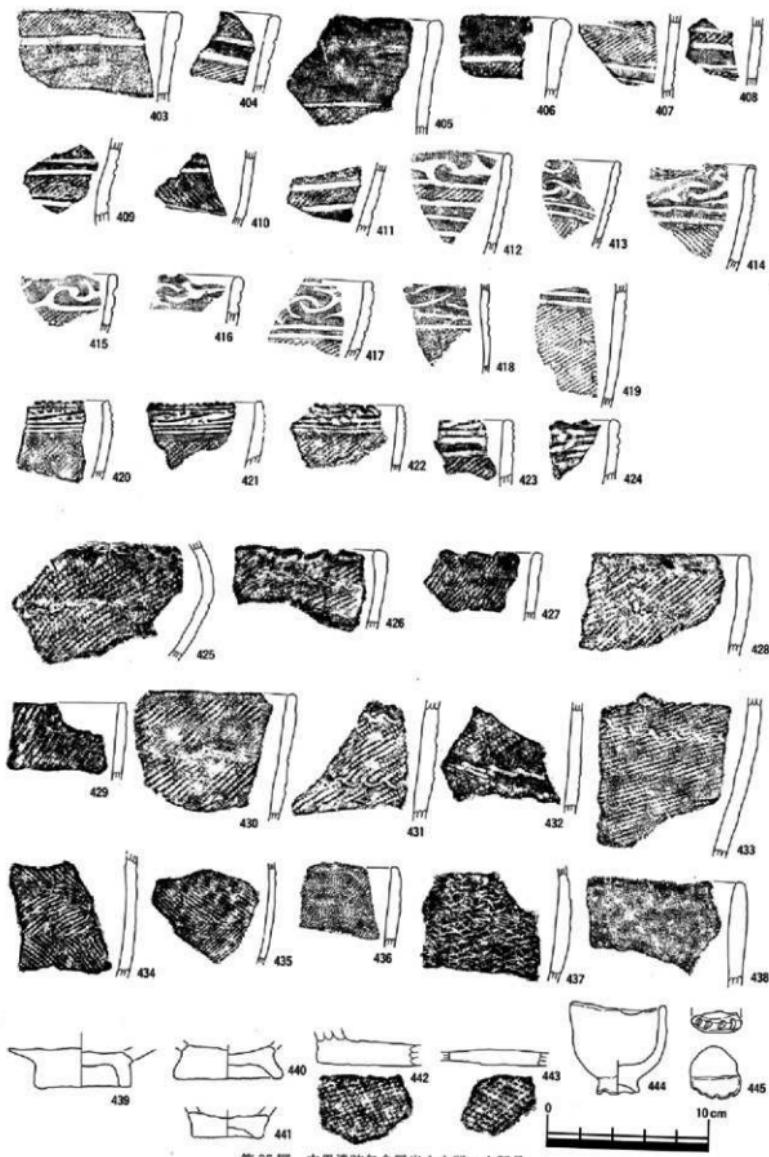
第32圖 中里遺跡土坑出土土器（7）



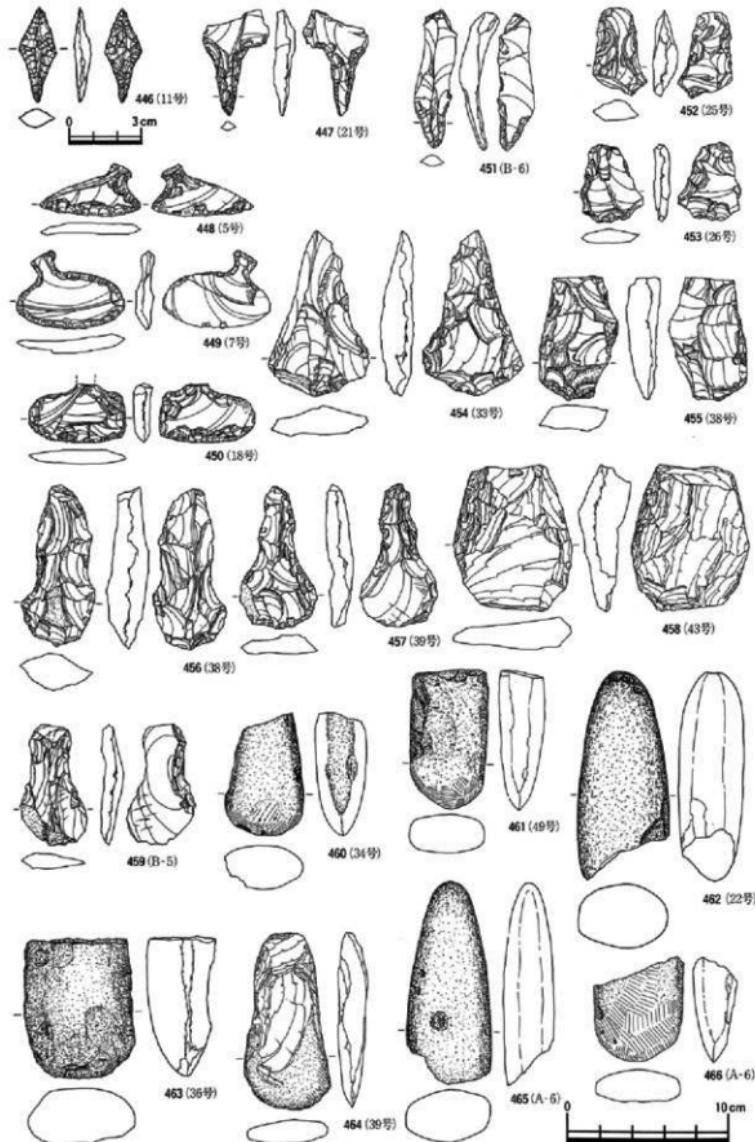
第33図 中里遺跡土坑出土土器(8)



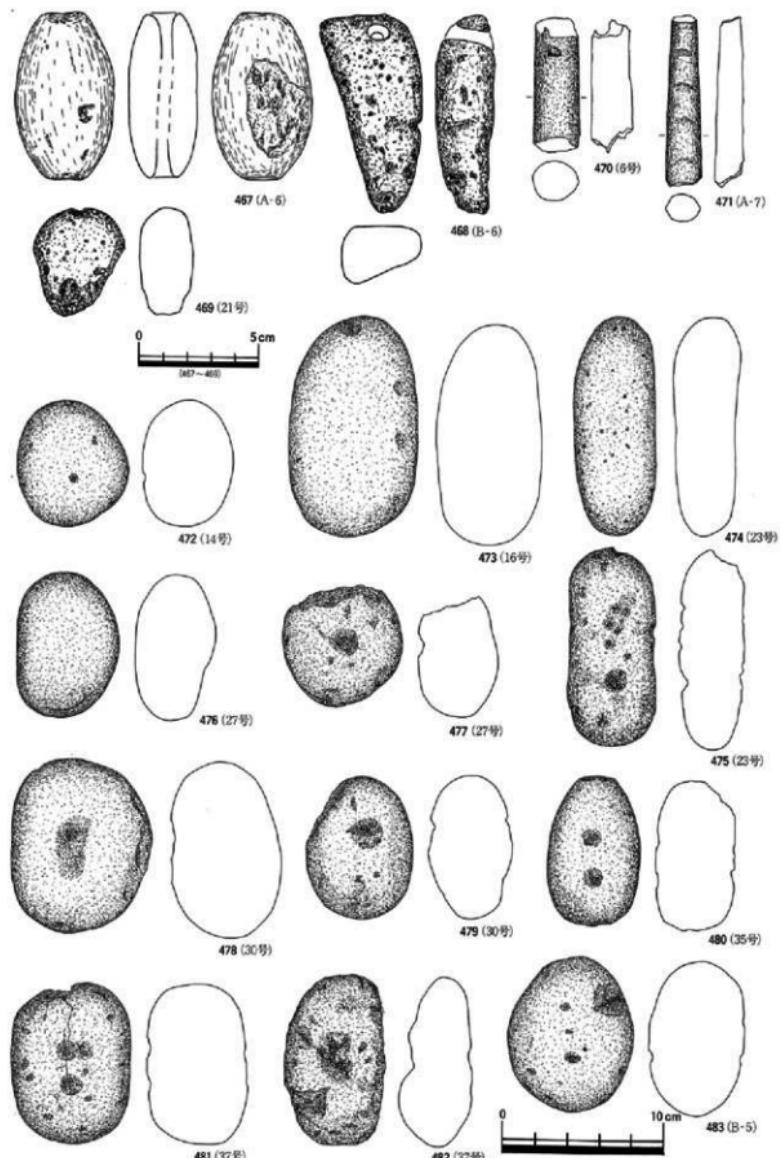
第34図 中里遺跡包含層出土土器



第35圖 中里遺跡包含層出土土器・土製品



第36圖 中里遺跡出土石器（1）



第37圖 中里遺跡出土石器（2）



中里遺跡近景（南から）



土坑群検出状況（南から）



1・2号土坑



14・16～18・19・20号土坑



23号土坑土器出土状況



21・48・50号土坑

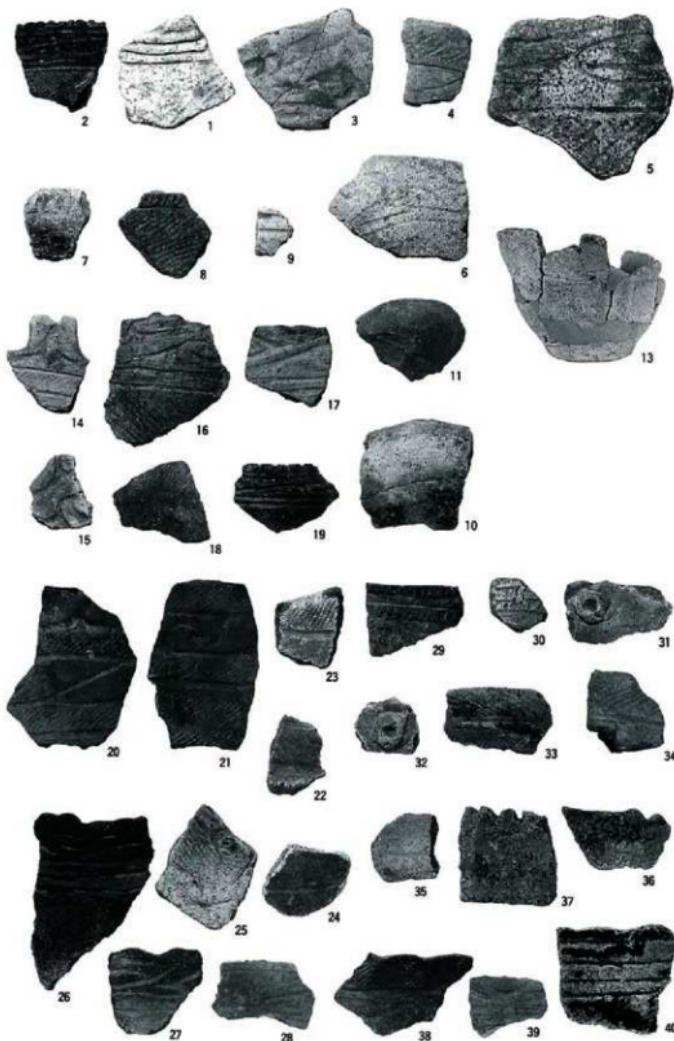


垂飾品出土状況



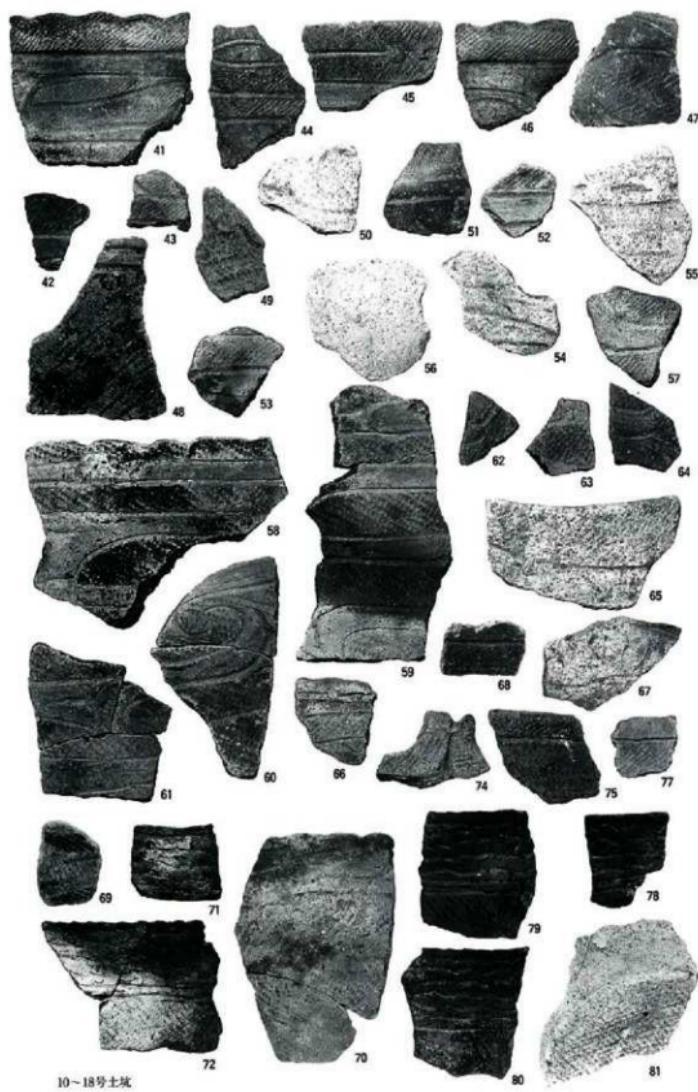
土坑群検出状況（南から）

図版 11 中里遺跡



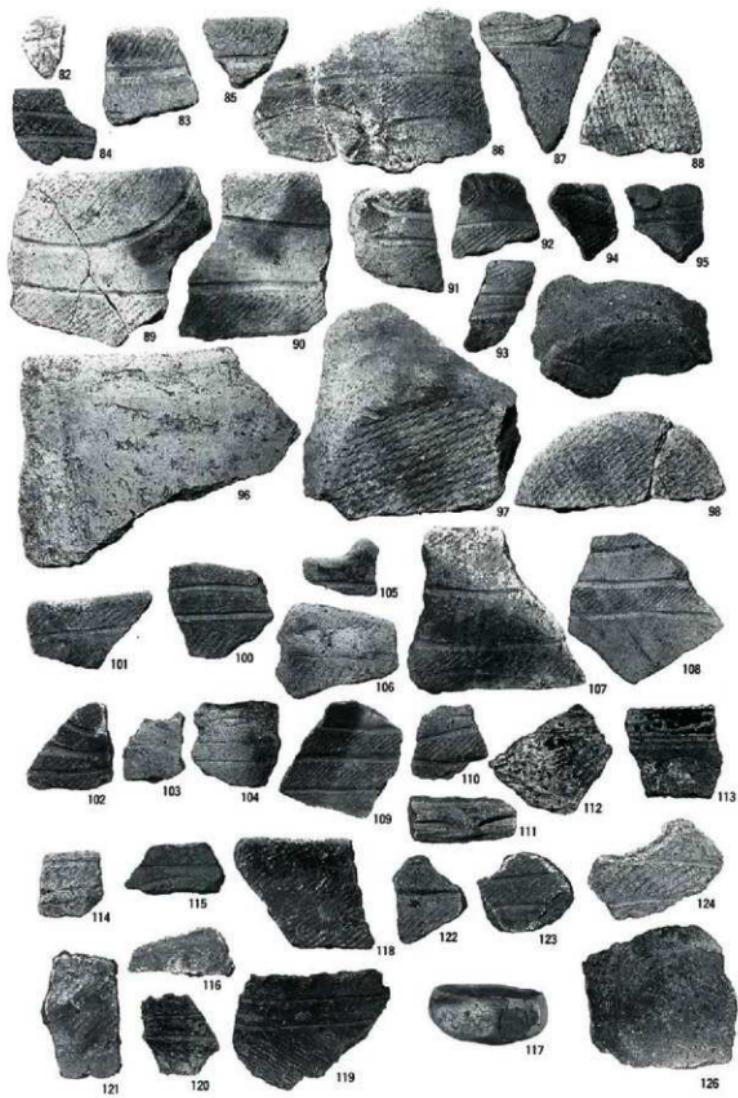
1 ~ 9 号土坑

图版 12 中里遗址土坑出土土器 (1)



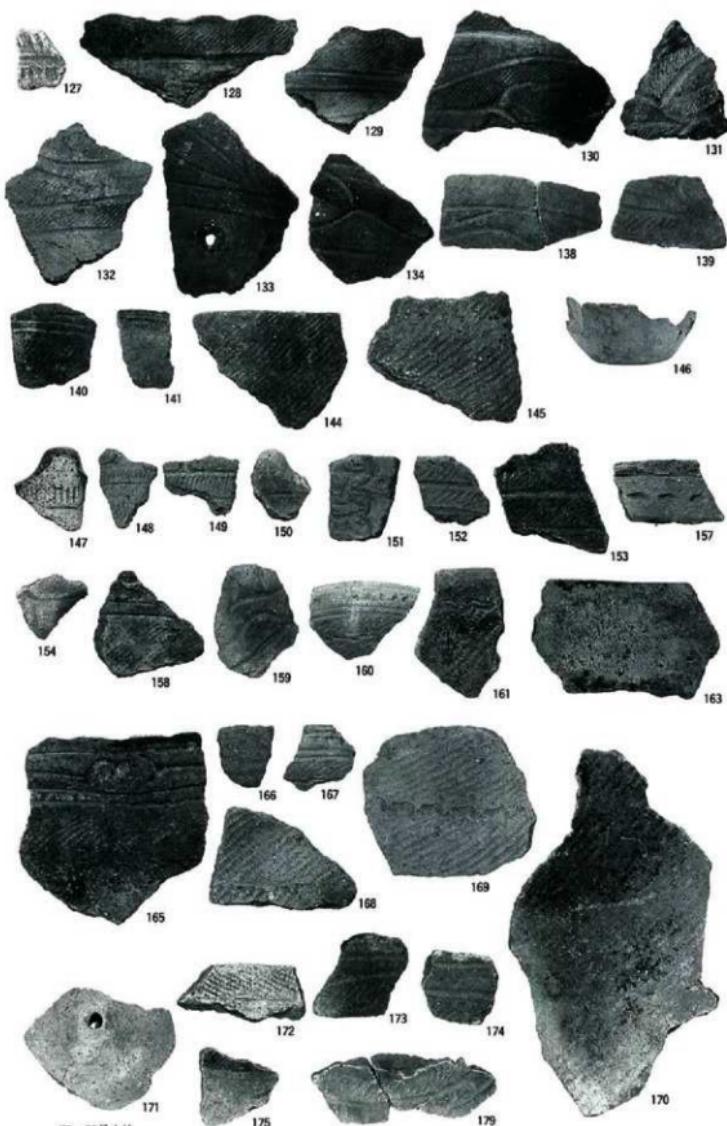
10~18号土坑

圖版 13 中里遺跡土坑出土土器 (2)



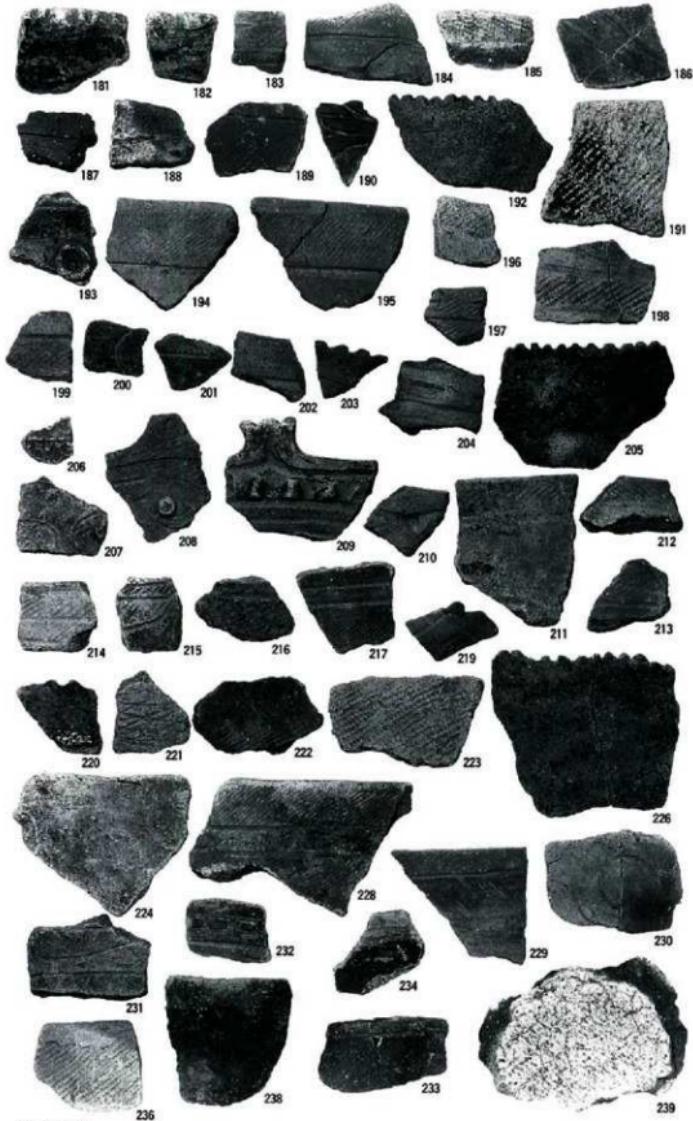
19~24号土坑

图版 14 中里遗址出土土器 (3)



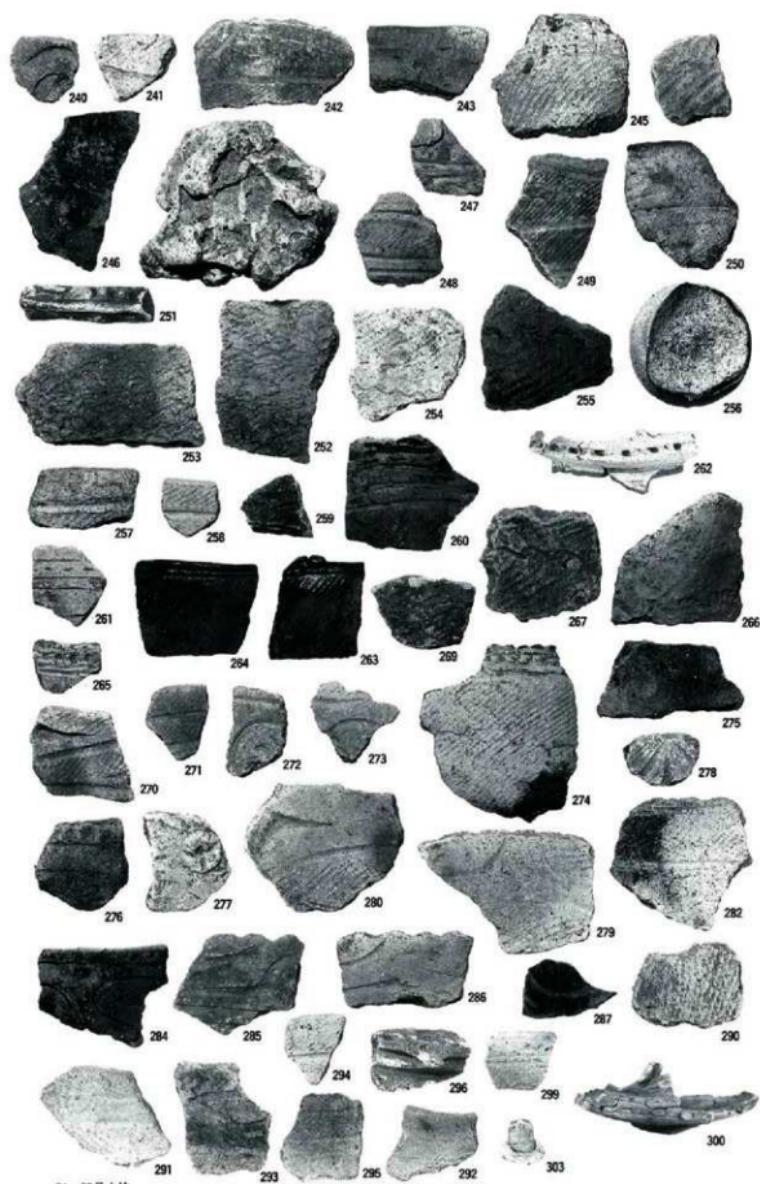
25~28号土坑

图版 15 中里遗址土坑出土土器 (4)



29~33号土枕

图版 16 中里遗址出土器 (5)



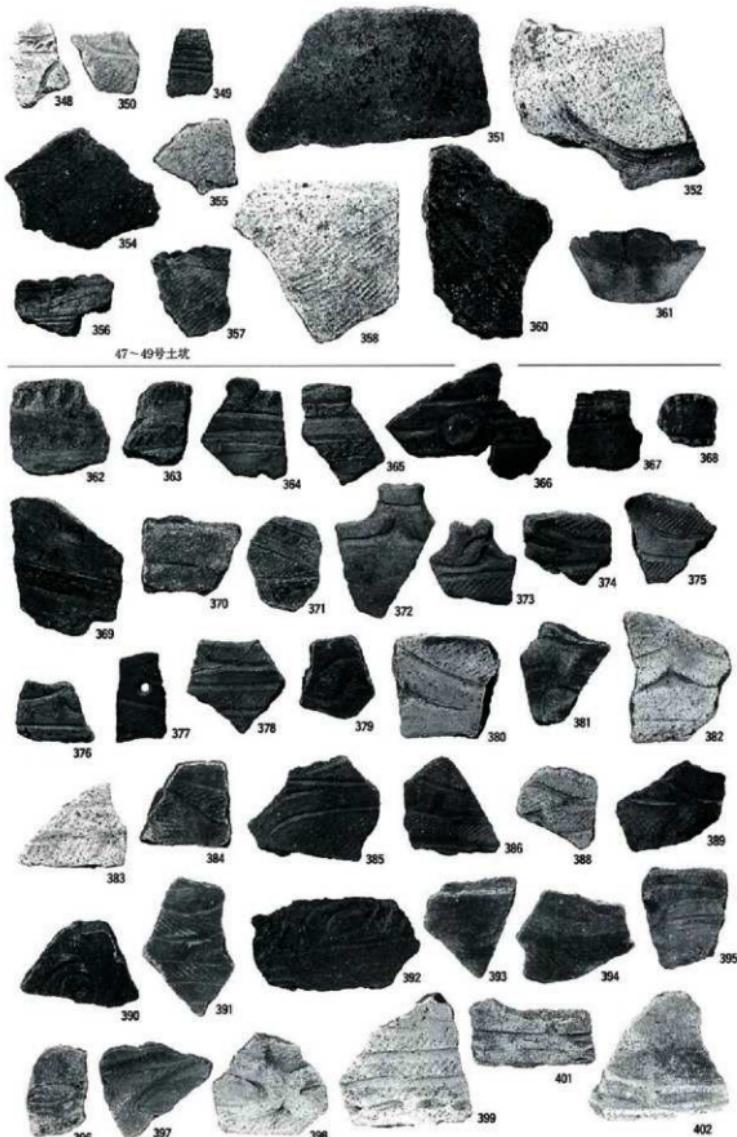
34~39号土坑

图版 17 中里遗址土坑出土土器 (6)

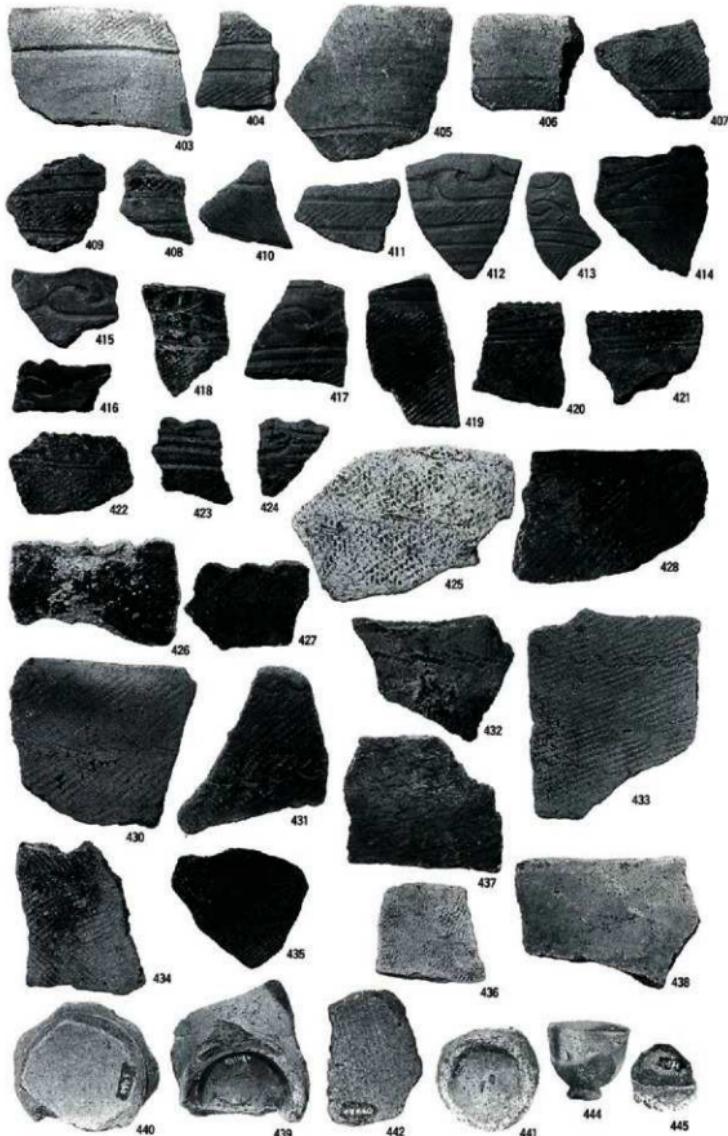


40~46号土块

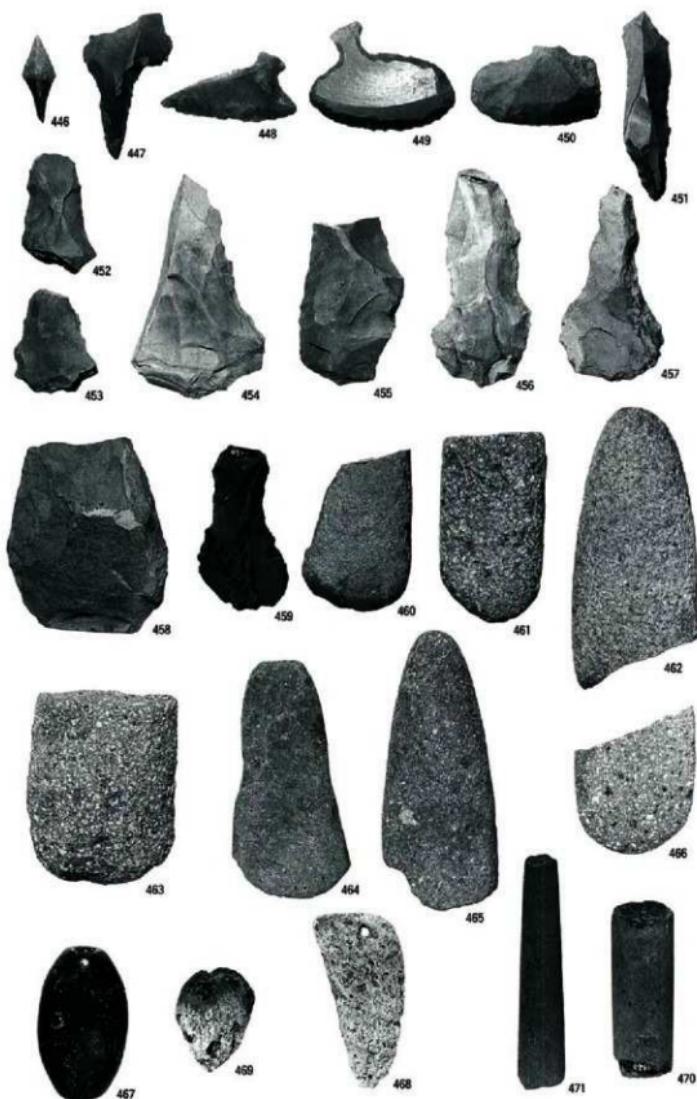
图版 18 中里遗址出土器 (7)



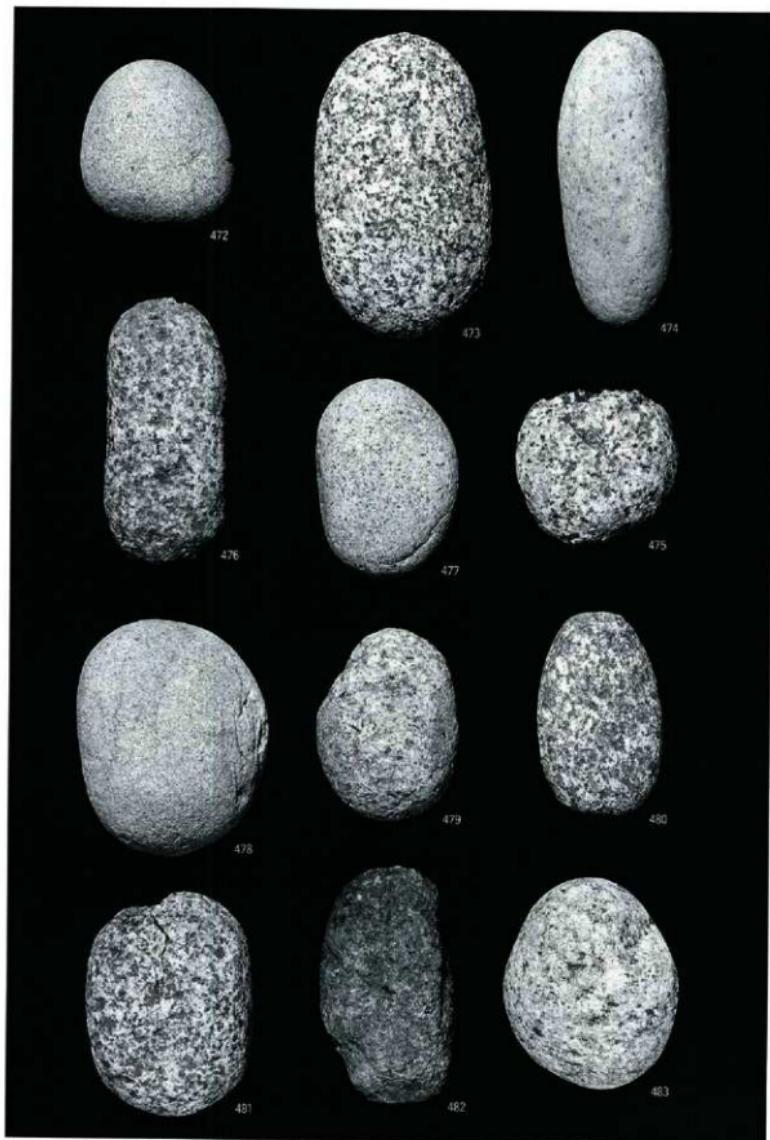
圖版 19 中里遺跡土坑出土土器 (8) · 包含層出土土器 (2)



图版 20 包含层出土土器 (2)



图版 21 中里遗址出土石器 (1)



图版 22 中里遗址出土石器 (2)

## 7. 長者屋敷遺跡

所在 地 長井市草岡字長者屋敷

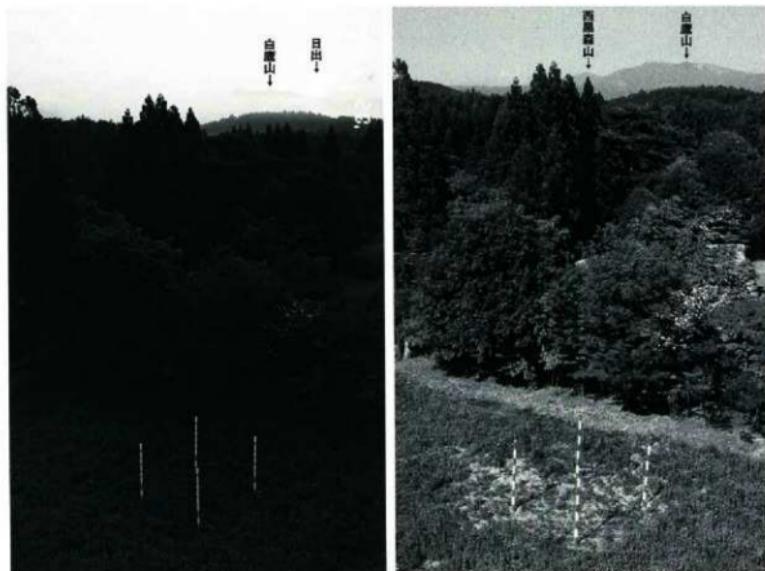
調査期間 平成 14 年 6 月 18 日～22 日

起因事業 遺跡台帳整備

調査目的 平成 10 年の調査で発見された 4 基の半蔵木柱遺構（以下 4 本柱という）の柱配置が春分・秋分・冬至における日出・日入の方向と密接な係わりを持っていることが確認された。そのため夏至の日出・日入と 4 本柱の関係ならびに当該時期における目印となる山の存在を明らかにし、記念物的遺構と景観の係わりの有無について現地調査を行った。なお、遺跡周辺は地形や屋敷林が生い茂っているため、日出の調査を実施するにあたり高所作業者を用いて地上 16 m の地点から観測を行った。

調査結果 冬至の日入と夏至の日出は 180 度の関係にあることから、1 号柱から 3 号柱を望んだ延長線上に夏至の日出が予測される。しかし、実際は東側にずれて夏至の日出を観測した（図版 23）。ここで着目したいのは山の存在である。1 号柱・3 号柱の延長線には夏至の日出は見られなかったものの、西黒森山があたっている（図版 23）。冬至の日入では 3 号柱・1 号柱の先には朝日山系の稜線の突出部があたり、春・秋分の日出位置には出羽丘陵の突出部が位置しており、柱配置との係わりはそれぞれ柱の対角線と 4 本柱の中央部という位置関係にあると解釈されよう。

のことから、4 本柱は二至二分の限られた時期の日出・日入方位と遺跡周辺の山並みを意識して柱配置が決められたものと推測され、記念物的遺構と景観には密接な係わりがあったものと考えられる。



夏至 日出と 4 本柱

4 本柱と西黒森山

図版 23 長者屋敷遺跡

## 報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	市内遺跡発掘調査報告書							
副書名	堀端遺跡の調査、宮遺跡の調査、中里遺跡の調査、長者屋敷遺跡の調査 他							
巻次	11							
シリーズ名	山形県長井市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第22集							
編著者	岩崎義信							
編集機関	長井市教育委員会							
所在地	〒993-8601 山形県長井市ままの上5番1号 TEL 0238-84-2111							
発行年月日	西暦 2003年3月31日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査要因
		市町村	遺跡番号					
堀端	山形県長井市 中道字堀端	6209	新規発見	38度 06分 16秒	140度 01分 40秒	2002.06.12 ~ 2002.06.24	1,100 m <sup>2</sup>	宅地造成に伴う立会調査
宮	山形県長井市 十日町	6209	1	38度 06分 35秒	140度 02分 21秒	2002.10.11 ~ 2002.10.31	350 m <sup>2</sup>	宅地造成に伴う立会い調査
中里	山形県長井市 草岡字中里	6209	96	38度 08分 03秒	140度 00分 28秒	2002.05.10 ~ 2002.05.31	102 m <sup>2</sup>	遺跡台帳整備に伴う発掘調査
長者屋敷	山形県長井市 草岡字長者屋敷	6209	81	38度 08分 02秒	140度 00分 17秒	2002.06.18 ~ 2002.06.22		遺跡台帳整備に伴う確認調査
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
堀端	集落跡	奈良・平安時代		竪穴住居跡、土坑		土師器、須恵器		
宮	集落跡	縄文時代中期		竪穴住居跡、土坑		縄文土器、石器		
中里	集落跡	縄文時代後・晚期		土坑		縄文土器、石器		
長者屋敷	集落跡	縄文時代中期					半截木柱遺構と夏至の「日の出・日の入」の係わり	

---

**長井市埋蔵文化財調査報告書 第22集  
市内遺跡発掘調査報告書(11)**

平成15年3月31日 発行

発行 長井市教育委員会  
山形県長井市まつの上5番1号  
TEL (0238) 84-2111

印刷 梶芳文社よねざわ印刷  
山形県長井市十日町一丁目9番2-1号  
TEL (0238) 84-2148

---

